10月度 行事予定

■会議

10/9　常務理事会
〃　第48回国民体育大会組合せ抽選会

■ナショナルチーム

●男子A
10/6　アジア選手権大会（バーレン）より帰国

日本リーグ

10/2	1部男子	大阪	千鳥体育館	大同特殊鋼×大崎電気
〃	1部女子	〃	〃	北國銀行×日立栃木
〃	2部男子	福井	福井県営体育館	トヨタ自動車×竹芝精巧
〃	〃	〃	〃	三　景×本田技研熊本
〃	〃	〃	〃	日本電装×豊田自動織機
〃	〃	〃	〃	北陸電力×大阪ガス
10/3	1部男子	宮城	古川市総合体育館	日新製鋼×トヨタ車体
〃	1部女子	〃	〃	オムロン×シャトレーゼ
〃	2部女子	〃	〃	大崎電気×日本ビクター
〃	1部男子	兵庫	西宮市立中央体育館	本田技研×大同特殊鋼
〃	1部女子	〃	〃	ジャスコ×ブラザー工業
〃	2部女子	〃	〃	大和銀行×ムネカタ
〃	2部男子	福井	福井県営体育館	トヨタ自動車×北陸電力
〃	〃	〃	〃	三　景×日本電装
〃	〃	〃	〃	本田技研熊本×大阪ガス
〃	〃	〃	〃	竹芝精巧×豊田自動織機
10/9	1部男子	福島	本宮町総合体育館	本田技研×三陽商会
〃	2部女子	〃	〃	ＪＵＫＩ×ムネカタ
〃	1部男子	愛知	知立福祉体育館	大崎電気×トヨタ車体
10/9	1部女子	愛知	知立福祉体育館	北國銀行×シャトレーゼ
〃	2部男子	熊本	本田技研熊本体育館	トヨタ自動車×豊田自動織機
10/9	〃	〃	〃	日本電装×大阪ガス
〃	〃	〃	〃	本田技研熊本×北陸電力
10/10	1部男子	京都	田辺中央体育館	湧永製薬×大同特殊鋼
〃	1部女子	〃	〃	オムロン×日立栃木
〃	2部男子	〃	〃	三　景×竹芝精巧
〃	〃	熊本	本田技研熊本体育館	トヨタ自動車×大阪ガス
〃	〃	〃	〃	日本電装×北陸電力
〃	〃	〃	〃	本田技研熊本×豊田自動織機
10/17	1部男子	岩手	岩手県営体育館	本田技研×大崎電気
〃	1部女子	〃	〃	北國銀行×ジャスコ
〃	2部女子	〃	〃	大崎電気×ＪＵＫＩ
〃	1部男子	栃木	栃木市総合体育館	湧永製薬×三陽商会
〃	1部女子	〃	〃	シャトレーゼ×日立栃木
〃	2部男子	〃	〃	北陸電力×竹芝精巧
〃	1部男子	茨城	岩井市総合体育館	日新製鋼×中村荷役
〃	2部女子	〃	〃	大和銀行×日本ビクター
〃	1部男子	大分	大分県立総合体育館	大同特殊鋼×トヨタ車体
〃	1部女子	〃	〃	オムロン×ブラザー工業
〃	2部女子	〃	〃	ソニー国分×ムネカタ

CONTENT

10月度行事予定……1
第15回世界選手権大会誘致活動状況……2
■第４回アジア女子選手権大会報告
北朝鮮の飛躍に思う……団長　竹野奉昭……3
全５試合、かく戦えり……監督　緒方嗣雄……4
アジア選手権で学んだこと……主将　谷本　泉……6
男子ナショナル・ヨーロッパ遠征記……監督　蒲生晴明……7
第20回全国高等専門学校選手権大会……9
第22回全国中学校大会を終えて……真田　元……10
第36回全日本教職員大会……遠藤健次……11
インターハイに優勝して《群馬県富岡高校・名古屋短大附属高校》……12
全国小学生大会に優勝して《沖縄県当山小・熊本県三佐》……13
第１回日韓中ジュニア交流競技会……14
ドイツ研修レポート……田口　隆……15
◎夫婦で作ったふたつのチーム《富山県高岡市・大房重則・恵美子》……16
第４回山中湖高校オープンチャレンジカップ大会……17
■国際情報……18
ＡＨＦの組織紹介……21
●委員会だより〔スポーツ医科学委員会〕〔日本リーグ委員会〕……22
●県協会だより〔徳島県協会〕……23
各地の大会結果……24

［写真提供］（株）スポーツ・イベント

第15回世界選手権大会誘致活動状況

スポーツイベント誘致の背景

井　　薫
強化担当常務理事（熊本県ハンドボール協会理事）

6月26日の日本協会の評議委員会で、第15回男子世界選手権大会の日本開催の場合、会場地は熊本県に決定。この決定を受け熊本県、および熊本市は正式に同大会の誘致と開催にむけての準備をスタートさせました。

地方における世界選手権規模のイベントは、千葉県幕張の卓球、岩手県雫石のアルペン競技、福井県鯖江の体操、山梨県のカヌー(ジュニア)と活発化していますが、その大きな理由はこれまで掛け声に過ぎなかった国際化というテーマの具体化にあり、それらを通しての有形無形の体験が将来の大きな糧になるとの判断が自治体にあると思います。

また競技団体サイドも、その浮沈をかけてさまざまな企画を持ち、その最たるものは世界選手権大会の開催にありますが、幾つかの競技を除いては資金の独自の調達は難しく実現に至らないケースが多く、自治体とのドッキングで開催、もしくは現在進行中の右記のような例があるわけです。

これを24ケ国参加のハンドボールの世界選手権大会、熊本開催という図式でもう少し詳しくみてみますと、確かに国体開催の2年前のプレ行事としては、絶子のタイミングですし、スポーツムードの盛りあげにも役立つと考えられ、また阿蘇や天草を中心の観光県としての、世界への情報発信の期待も大きいと思われますが、それではどの競技でも良いのかというと必ずしもそうではなく、ハンドボールだからという理由も決して少なくないと思います。

今春の選抜大会の熊本市立商業高校の優勝が、実は中学大会から日本リーグまでの熊本代表の全国優勝80勝で、県民に広く認められた種目であるという県内事情はありますが、むしろ行政の判断はJリーグの盛況もふまえ、ヨーロッパの球技としてのハンドボールの持つチームゲームの面白さとしての位置づけ、価値観を求めているのではないかと思われます。

この企画のスタートの時点で熊本県知事に、ハンドボールとはどんなものなのかを理解してもらうために、日本協会の普及、指導委員会から、男子世界選手権大会のVTRのダイジェストを借用しましたが、大変迫力があり、こんなに面白いスポーツなのかとのコメントがあり、嬉しくもあり意を強くもしました。

いまハンドボールとしての最大のイベントがスタートをきりますが、ハンドボールはこんなに面白いものだということを、関係者のみなさんと日本全国に広めたいと思います。

8月までの動き

4/10	スタディグループ（渡邊、中澤、井、杉山の各氏）
6/26	評議員会において会場地を熊本とし招致運動に着手することが決定
7/16	スタディグループの検討結果を受けて、東京、熊本にプロジェクトチーム発足（東京は日本協会在京常務理事、熊本は県協会・県で購成）
7/19	熊本県協会、県、市に対する説明会（県協会主催）
7/23	東京、熊本プロジェクトチーム合同会議開催（於：東京）
7/29	渡邊副会長ＩＨＦ訪問
8/4	東京、熊本プロジェクトチーム第２回合同会議開催（於：東京）
8/10	東京プロジェクトチーム会合
8/31	東京プロジェクトチーム会合

第4回アジア女子選手権大会報告

北朝鮮の飛躍に思う

団長　竹野　奉昭

中国・汕頭市で開催された第4回アジア女子ハンドボール選手権の団長として同行した。日本選手団は日立栃木・北国銀行での長期合宿を経て、8月16日、品川プリンスに宿泊、壮行会。17日8時40分（JAL002）に成田を発ち、香港に13時着（現地時間）。1日2便しかない18時40分の便を待つこと6時間、私自身が疲れたのだから選手はそれ以上だろう。50分の飛行時間でやっと汕頭に到着。空港で中国関係者の出迎えを受ける。汕頭には4ツ星ホテルが2つあり、島田・岡本審判員は本部のホテルに、選手団は汕頭国際ホテルである。

パトロールカーの先導で信号無視でホテルに到着する。途中、自転車は無灯火で走っている。汕頭市は人口80万人で、刺繍のハンカチで有名だ。経済は資本主義の市場であり、政治は社会主義（共産主義）で、経済特別区のひとつに指定されている。

急激に人口が増え、人口密度が一番高い都市であるとは、今回私達の通訳をされた彭建全氏の話である。街には新しいビルが建ち、活気に満ちたこれからの都市である。

中国といえば自転車で交通ルールがあってないところである。交通信号が赤でも渡る。自転車、バイクの警笛がいたるところ鳴り響き、警笛がなっても見ない。日本のスクランブルの交差点に人・自転車・バイク・自動車が交差する。〝赤信号 皆んなで渡れば怖くない〟を地でいっている。しかし、それが自然に流れて行くのだから驚きである。ホテル・体育館は冷房があり、快適な生活であった。冷房のきいている部屋から一歩外に出ると、日中は35度と暑く、街を歩くとサウナ風呂に行ってるようなものである。

女子選手権の顔ぶれは日本・北朝鮮・韓国・中国・中華台北・香港・インド・シリアと、ソ連から独立した中央アジアの4カ国のキルギスタン・カザフスタン・トルクメスタン・ウズベキスタンの参加が考えられていた。大会はAHFの規約で参加国数により試合方法と日程が決まり、今回の参加チームは7カ国で組合せが7月28日現在で次のように決まりました。

（A）韓国・中華台北・トルクメスタン

（B）日本・中国・インド・カザフスタン

17日には歓迎レセプションが行われ、その夜に日本・インド・IHF派遣の審判員（ノルウェー）、18日の朝にトルクメスタンに替り北朝鮮、夜にカザフが汕頭に到着し、各国とも大会参加のためスケジュールの調整に苦慮していることが伺える。

18日9時から代表者会議が大会本部の金海亭ホテルで行われた。カザフの到着が遅れるので、18日1時40分現在で試合日程の変更がなされ、日本チームが開会式後のオープニングゲームとなり、日本に了解を求められ、伊藤コーチと相談し了承しました。

昨年8月からAHFの執行部が変り、この選手権開催も5月中旬に各国に連絡が来ました。AHFと中国から開催期間の連絡が遅い変更等、また国内日程と重なるなど多くの関係者に大変ご迷惑を掛けました。今後もこんな事があると思いますが、日本協会としてもAHFとも密に連絡をとり対応をしていきたいと思いますので、今後ともご協力をお願いします。

試合の詳しい内容については監督・コーチ・選手から報告があるので省略しますが、毎日最終試合が21時10分に始まり、夕食が0時となり選手のコンデション作りが大変だったと思う。

今回の大会を顧みて、アジア女子の縮図が変わろうとしている。日本・韓国・中国の三巴から北朝鮮の飛躍、そして中央アジアの諸国の加入です。優勝した韓国はダントツの力を発揮し、他国と大きく差がついた感がする。4年に1回のオリンピックを目標に役員・選手が交替し、世界・アジアのチャンピオンを維持しているのは何か、日本ハンドボール界全体が考えなくてはいけない時にきている。指導者のマンネリ化か、指導体系の確立が急務である。来年の広島で開催されるアジア大会に期待したい。



全5試合、かく戦えり

監督　緒方　嗣雄

■合宿

本大会日程が決定せず、国体予選、日本リーグと重なりそうで心配していた日程も、6月末には、8月18日～26日と決定した。前期日本リーグ終了と同時に合宿を予定、一か月間の合宿を前半と後半に分けて行った。前半は7月18日に集合し、19日、20日は体育協会スポーツ研究所で体力測定及び健康診断を実施した。測定中に痛感した事は、前年及び前々年の測定値より悪い種目が多く、ズバ抜けた成績を出す選手もなく、平凡な測定値で終った。

20日夕方より本格的トレーニング地の日立栃木体育館に集合。ジュニア選手6名は韓国遠征のため、11名の選手でアジア選手権を目指した合宿のスタートであった。合宿前半の目標は、基礎技術、基本プレーの見直しと、個人技術力のアップ、各ポジションの確定と選手各々のポジション争いである。ミーティングに於いて、

一、一人一人が強くなる事。

二、目的意識をしっかり持つ事。

三、生活にメリハリを付け、キビキビとした行動をする事。

以上を指示した。

例年になく涼しく、苦しくなりがちな基本練習も能率良く消化できた。7月24日より韓国遠征をしていたジュニアのメンバー6名も加わり、活気のある練習が毎日行われていった。

技術的には、ボディコントロールが悪く、パスミス、キャッチミスが目立つ。大きなミスにはならないが、お互い選手間のタイミングがずれ、チャンスにならないケースが多い。ピックアップチームの馴れ合い部分があらわれる。お互いに厳しく注意をしながら、チーム形成を心掛けなければならない。前半の合宿終盤は、インターハイ出場選手達の練習見学、恩師の激励等があり、盛り上がって予定の2週間を予定通り消化した。

後半は、北国銀行に場所を移し、大会参加メンバー14名で、8月6日～16日までの10日間、コンビネーション、展開力を中心とする。退場者を想定しての実戦練習、練習試合でプレーの確認、特にスピードトレーニングとして高校男子との試合を数試合行い、パワーとスピードプレーの中で自分達のプレーの確認を行った。

練習試合の中の得点で、ラッキーな得点が多い。又、ヒーローとなる選手が日替りメニューである。安定性のある選手と、確実に得点できるプレーを多く作る事が急務となって来た。特に数的に有利な時の得点を確実にしたい。合宿終盤の午前中は、ほとんどの時間をこの事に費した。ロングシュートに不安を残すが、ケガもなく順調に最終調整を終了した。

■大会前

本大会の出場国とグループ分けは、7月の合宿中に連絡が入ったが、北朝鮮の不参加、中央アジアよりカザフスタン、トルクメニスタンの2か国が初参加をして7か国となり、2グループに分れた。日本はBグループとなり、中国、カザフスタン、インドの4か国で予選リーグである。

目標を中国一本にしぼり、照準を合せた最終調整をした。オープニングゲームに当る事を予想をして、現地入り。空港よりホテルまでのバス移動の中で、18日からの試合日程を渡され、説明を受けた。日本の第一戦はインドと19日に対戦するようになっていた。オープニングゲームは中国対カザフスタンであるが、カザフスタンの到着が18日の午後となりそうであり、日程が大幅に変更になりそうだ。すべて18日10時よりの代表者会議で決定するとの事であった。

我々スタッフは、オープニングゲームに当てられる事を予想して当日の予定を立てた。代表者会議は竹野団長、伊藤コーチにお願いして、私と穂積コーチは、割り当てられたトレーニング時間1時間に、対中国戦を予想した調整を行った。

試合会場は5千人位の観客席があり、珍らしく空調設備があり、予選以上の快適な会場での練習であった。午前中の代表者会議で、すべての変更した予定が発表された。予想通り中国との第一戦となった。気合を入れ直し、ミーティングで最終確認して試合会場へ。

■オープニング

各国1台のマイクロバスを準備され、パトカーの先導で会場入り。会場は小・中学生、軍隊と動員され、5千人位の観客でほぼ満員である。選手入場、挨拶等、型通りのセレモニーが行われた。小学生、幼稚園児によるマスゲームがあり、約30分遅れでオープニングゲームの開始である。

ウォーミングアップの場所がなく、体育館外の暗い所でランニングをしたり、廊下でフットワークをした程度であり、試合開始の前5分位シュートを打つだけであり、不安状態のまま試合開始となった。

才一試合　大会オープニングゲーム　PM8時40分より

約30分遅れのスタートとなる。選手紹介時は堅さが目立ったが、開始早々貴田選手の一投目のロングシュートが決まり、幸先の良いスタートとなった。即中国にサイドシュートを打ち込まれ同点。比嘉選手のサイドシュートと一進一退のゲームとなる。谷本選手、小俣選手らベテラン選手の活躍で、ほぼ互角で前半終了。後半も常に2～3点のリードを奪われ、苦しい展開となった。小俣選手のサイドシュート、貴田選手のロングシュート、西選手のロングシュートと、後半追い上げたが点差は変らず終了。惜しい試合を落した。ミスが多く、又、シュート確率も悪く、反省する点ばかり多い試合内容であった。

才二試合　カザフスタン　8月20日PM9時10分～

中央アジアからの初参加、欧州スタイルのチームである。196cmの選手が2人、動きは良くないがポストマンである。サイドの選手は日本選手と変らず158cm位であり、ウエイトの乗った走りは迫力満点である。ポストマンにもボールが渡れば、得点かPTかどちらかになる。ややロングシュートの弱さが目につく。

日本チームの戦術は、速攻されない事（ミスを少なくムダなシュートは打たない）、ポストに入るパスをカットする事（ポストディフェンス谷本選手）、ロングシュート勝負として速攻にもって行く事、

これらをミーティングして試合に臨んだ。

196cmのポストマンを162cmの谷本選手が必死に守ったが、得点の7割はポストシュートとPTを入れられた。終始リードをして行ったが、後半に入り、20分に同点にされ、その後8分間は1点を争う攻防戦となるが、松下選手のサイドシュートが決まり1点リード。終了間際に小俣選手が速攻から強引に飛び込みPTをさそい、比嘉選手がPTスローを決めて2点差。さらに速攻を出し比嘉選手が強引なロングシュートを決め3点差で勝利をものにした。

苦しめられたが終始リードをしていた事と、ミーティング通りの試合運びができた事が勝因であったと思う。

才三試合　インド　8月21日PM9時10分～

力の差があり、日本選手の思うがままの試合であり、若い選手の伸び伸びと切れの良いプレーが目立って、予戦リーグで2勝する事ができた。

才四試合　決勝トーナメント
韓国　8月23日PM7時50分～

メンバーを一新した韓国チームであり、特に目立つ選手はいないが、全選手が揃っていてどこからでも得点できるチームである。試合開始20分位までは良く健闘したが、韓国チームに1名の退場者が出た時、日本チームがサインプレーに入ろうとする瞬間パスカットされ速攻。この間3点連続得点され、集中力が切れたようだ。

後半に入っても韓国5人のケースが何度かあったが、攻撃の仕掛けが遅く、自信のないサインプレーで仕掛けがことごとく失敗を重ね、リズムをつかむ事なく大敗をした。

才五試合　順位決定戦　北朝鮮
8月24日PM7時～

昨年東アジア選手権で大敗し、世界B選手権で1点差の惜敗で10位となり、今回昨年の借りを返す絶好のチャンスである。昨年のメンバーより3名が残り、13名は新人ばかりで、19才、18才、17才とジュニア資格のある若い選手である。荒削りでミスは多いがスピードがある。高い位置に防禦ラインを上げ、前でスピードを止める事、全員で速攻を仕掛けて来るので得点後、気を抜かない事、自分達のサインプレーを徹底する事をミーティングして試合に臨んだ。

お互い気が乗らなく、スピードがなく、ミスの多い試合となった。前半20分頃、3点差をつけてリード。引き離すかと思えたが、自分達のミスを拾われ、速攻に持って行かれてアッという間に逆転され1点負けて前半終了。

後半に入り速攻、サイドとシュートを決められ、結果的には点差を詰める事なく4点差をつけられ終了。完全にミスによる自滅の試合であった。

■大会の総評

コンビネーションプレー、サインプレーを何回も失敗した。特に相手チーム5人の時に仕掛けが遅かったりミスも多かったように思う。原因はサインプレーの最後のシュート部分だけを頭に入れてプレーしたために、途中の大切な動き、スピードがなく、相手DFに簡単に見破られてしまった。一人一人が強い気持ちで得点を取りに行くガッツプレーに欠ける。国際試合に対するファイティングスプリットに欠けたり、甘さの見える時がある。

各チームのレベルは、韓国チームだけがズバ抜けて強く、他の中国、北朝鮮、カザフスタンと日本を加えた4チームのチーム力は同等である。若い選手を多く入れた北朝鮮が今後要注意であり、カザフスタンもロング陣が整えば注意が必要であると思う。

日本チームの立て直しを考え、練習時間を確保できれば4チームに勝つのは勿論のこと、韓国に挑むチームができることを確信した。

最後になりましたが、1か月に亘り選手を協力して頂きました所属チーム監督には大変お世話になりました。

今大会の団長・竹野氏、副団長・藤原氏、ドクターの坂本氏、トレーナー・斉藤氏、審判・島田氏、岡本氏、コーチ・伊藤、穂積両氏、そして選手15名全員の協力により、事故もなく遠征が終了致しました事に感謝致します。今回の成績を充分に反省し、次回広島アジア大会には、強い全日本チームで臨む所存です。



第4回女子アジア選手権大会得点表(個人)

	中国	カザフ	インド	韓国	北朝鮮	合　計	備考
荒川	0		6	0		6	
上出	1	1	9	0	0	11	
松本	0	0	3	0	0	3	
大林		0	8		0	8	
比嘉	5	8		3	3	19	
貴田	4	4		6	1	15	
小俣	6	0	5	4	6	21	
西	2	1	1	1	3	8	
谷本	2	6	0	5	4	17	
松下	1	5	4	6	4	20	
山尾			2			2	
西口	0	0	2	2	0	4	
合計	21/24	25/22	40/10	27/41	21/25	134/122	

アジア選手権で学んだこと

主将　谷本　泉

第4回アジア大会。今回は中国・汕頭で行われた。A・Bグループに分かれて、日本は中国・インド・カザフスタンとの間で予選が組まれた。開会式の後のオープニングゲームは、日本対中国に決まった。

去年の極東大会では、前半1点差、トータル6点差で負けている。メンバーも両フローターは健在の中国。この大砲プラス大型ポストをどれだけ守り抜くかが試合前の自分たちの大きなポイントだった。前半はキーパーの好守もあり、10対11の1点負けで折り返した。

今年の中国は、去年に比べて力が落ちているように思えた。離されては追いついていくというシーソーゲームになったが、この波に乗りそうな時のチームの一体感がなかったのが敗因の一つだ。大切な場面のシュート、パスキャッチミスもあったかもしれないけど、このゲームで大切だと思ったのはそこだった。

一人一人ゲームに勝つ気持ちを持ってコートに立っていると思うが、ハンドボールはチームプレーだ。もっとコートに表現して、まわりにその気持ちを引きだせるくらいのものがほしい。

2戦目はカザフスタンだった。190cmの大型ポストのいるチーム。この日の課題は、ポストの守りと対中国でできなかったチームが一つになってゲームをすることだった。考えていた通り相手はポストにパスを投げてくる。わかっているが、押しこまれペナルティーに持っていかれるケースがいくつもあった。粘ってフリースローにした時もあったけれど、がっちり守るにはいたらなかった。

後半、5点差をつけていたにもかかわらずじりじり追いつかれ、残り10分すぎに同点にされてしまった。1点決めてもすぐ取り返され苦しい展開だった。でも最後には得点し、DFで粘って守り、1点引き離していくことができた。

この試合に負けては、上位を狙う自分たちの目標は達成できないという土たん場におかれた状況だった。終始「負けない」「絶対勝つ」という気持ちを、全員忘れていなかったと思う。全員のそういう思いがコートに表現できたから、最後の粘りがでたのだと思う。

対カザフスタン戦は、チームメイトの比嘉晴美さんの国際試合50試合目という記念すべき試合目でもあった。

3戦目のインド戦も白星で終え、決勝リーグへと進んだ。自分たちは、Aグループ1位の韓国と戦うことになった。

立ち上がりはよかったが、ミスから相手に簡単に得点されるケースが多く、また、相手が5人の時の攻めが悪くペースを崩してしまった。試合前、「どんな状況になっても、負けない気持ちを忘れずにいよう」と決めていた。だから60分常に守ろう、得点しようという強気の姿勢があった。韓国戦でいくつかのフォーメーションをした。一つのフォーメーションが決まり、それを応用・変化した動きにより4得点できた。相手が読んできたら、そのうらが使えるということが、おもしろいようにわかった。

その日もう一試合、中国対北朝鮮があった。この試合、最後までシーソーゲームだった。中国は、何本もシュートミスをする反面、北朝鮮は着実に得点し、自分たちのハンドボールをしていた。守りにしても思い切りのいいプレスDFをしてきて、中国のパスリズムをうまくこわしていた。けれども、残り時間もわずかの両チームのシュート。中国は前半とは逆に大切な時にきっちり得点し、北朝鮮ははずしてしまっていた。

どういう試合でも、ここが勝負という場面があると思う。そこでの勝負に強くなるチーム、ここが勝負どころだと気づくチームになりたい。

この大会に来て言われていることは、すべて基本は精神面のことだ。

最終日の北朝鮮戦にしてもそうだった。試合前のミーティングで「相手がどんなDFをしいてきても慌てることはない」「強気、気迫。思い切りいけ」と言われていた。

立ちあがりはよく、途中3点リードしたが、そこから退場者が連続して、一気に追いあげられてしまい、自分たちのリズムが崩れ始めた。前半1点負け。相手のプレスDFに対して走りがなく、シュートへいく前にミスをしてしまうことが多かった。精神的に弱いため、逆境に立たされた時に余裕を持ったプレーが出来なくなっていた。

技術より精神面を向上させるのは難しい。精神面は個人でコントロールするものだから。常に練習の中から、技術だけでなくもっと精神的強さも求めていくようにしていきたい。

いつも負けると「次へのステップ」「次こそ」と言うけれど、いつまでもこのままではいけないと思う。



男子ナショナル　ヨーロッパ遠征記

全日本男子チーム
監督　蒲生晴明

1、はじめに

今回の遠征について、日本協会の皆様方と日本協会小西常務理事に大変ご苦労をお掛けし、更に各国とも強豪との対戦をコンタクトをしていただきましたことを、この誌面を借りて厚く御礼申しあげます。また、直前の合宿では、大崎電気の皆様にも大変なご協力をいただき御礼申しあげます。お陰様で、大きな怪我もなく下記のとおり良い成績をあげることができました。以下に報告いたします。

2、遠征ゲーム等総評

(1)スケジュールと直前合宿

新生全日本になってから、幾度かのタイトル戦に出場してきたが、今回は初めてのトレーニング遠征であって、言ってみれば武者修行であった。スケジュールも20日間で12試合という、かなりハードな日程を組んで臨んだが、対戦相手のフィンランド、デンマークは、チャンピオンチームであり、ドイツではブンデスリーグ1部と4試合連続と、相手にとって不足はないスケジュールであった。

出発に先立ち大崎電気にて4日間の直前合宿を行ったが、日本リーグ前期が終了した直後とあって、選手達はかなり疲労しているようであった。その直前合宿では、ディフェンスを中心にトレーニングを行ったが、進歩状況は十分と言える状態ではなく、先々の不安を残しての出発となった。

(2)フィンランド戦（4ゲーム　3勝1敗）

フィンランドでは、昨年・一昨年の両チャンピオンと対戦したが、両チームとも激しいディフェンス・オフェンスをするチームであった。激しいと言うことは、パワーがありスピードも兼備わっているからこそできるわけだが、特に、接触プレーについては、力でねじ伏せると言ったプレーであった。これに対して、ディフェンスシステムをより積極的に行い、彼等のパワーがでる前にミスを誘発させるように対抗したこのディフェンスシステム（神風アタック）をすることにより、相手は、トレーニングしてきたことを十分にできず単独プレーになりヨーロッパの大型選手に対してかなりの効果があったと思う。試合内容としては、接戦になり一度離されるが、後半なかばに粘り強く追付くパターンであった。以前になくチームとして、粘り強さが出てきた。このことは、今後のゲームに繋がり自信になった。結果として、直前合宿での不安を一掃するぐらいに選手が一丸になり、幸先のよいスタートをきった。



(3)ドイツ戦（5ゲーム2勝3敗）

ハンドボールのメッカと言えばドイツであるが、そのドイツの1部リーグ（ブンデスリーグ）と4戦を組んだ。今回の遠征のメーンになるゲームであったが、選手達は、良く戦い伝統チームのTHWキールに勝利した。このことは、我々日本のハンドボーラーにとっても記念すべき勝利であった。ゲームの内容は、キールにミスを発生させるディフェンスが成功して、前半から先行した。後半にはいっても速攻が決まり、ゲームを通して主導権をとった一戦であった。

他に対戦した1部リーグには、前半に離されるが、後半接戦に待ち込み必ず同点あるいは1点差まで粘り強く追い上げることができた。しかしながら、勝つまでには行かなかった。やはりゲーム体験・経験の差がこの結果に出ているように思う。彼等は、ハンドボールをすることが仕事であり、プロフェッショナルであると言う強い意志の基に戦っているように感じられた。我々も、彼等の持っているプロフェッショナル意識に近付くことが勝つために必要と感じた次第である。けれども、その彼等をたじたじにさせたことを評価したい。

(4)デンマーク戦（2勝1敗）

デンマークにおいても、92・93年の両チャンピオンチームと対戦したが、両チームともパワー型のチームでオフェンスは、オープン攻撃が中心。ディフェンスは3—2—1、5—1、6—0のディフェンスを使いこなす良く訓練されたチームであった。しかしながら、全日本チームは、この両チームにも内容のある戦いができ、1敗（1点差の惜敗）はしたものの2勝を上げ十分に勝負できるまで成長した。特に、第1戦目にデンマークでも伝統のあるG.O.G.と対戦したが、ディフェンスシステムが、変則の5—1であったため我々全日本チームがこの変則ディフェンスを攻め倦み、一時は7点差まで開いた。しかし、徐々に創意工夫が現われ、また神風アタックからの速攻が連続して成功し、後半一気に追付いた。その後は一進一退の攻防が続いたが、最後の決定力の差が出て惜敗となった。1日置いて、第2戦もG.O.G.との対戦であったので、選手達は十分にミーティングを行い、変則ディフェンスに対しての対策を練ってゲームに臨んだ。その成果が現われスタートからスピードに乗り、一試合を通じて先行することができ、同じ相手に10点の大差を付けた。このことは、遠征を通して、ナショナルチームが成長した実績であってチームとしての自信になってきている証拠である。いずれにしても、ヨーロッパの大型選手に対して、今回の神風アタックが十分に通用することがわかり、彼等の力を発揮させないようにするためのノウハウのようなものを掴んだ。しかしながら、基本技術で勝負できていないと言うことも同時にわかったことで、どんな状況でも基本で攻防ができる逞しさを修得させることも大きな課題である。

ゲーム成績

月日	対戦場所	対戦成績	備考
7/25	フィンランド	全日本27 [14—8 / 13—5] 15SPARTA IF	1部リーグ5位
7/26	フィンランド	全日本27 [16—10 / 11—12] 22DICKEN	93 チャンピオン
7/28	フィンランド	全日本24 [10—15 / 14—10] 25BK-46	92 チャンピオン
7/29	フィンランド	全日本29 [14—9 / 15—5] 14FINLAND YOUTH NATIONAL	フィンランド21才以下代表
8/1	ドイツ	全日本25 [13—9 / 12—5] 14TVB HAMBURG	3部リーグ
8/3	ドイツ	全日本27 [12—19 / 15—14] 33BAD SCHWARTAU	1部リーグ
8/4	ドイツ	全日本19 [7—10 / 12—10] 22SG FLENSBURG HANDWITTE	1部リーグ
8/5	ドイツ	全日本26 [10—12 / 16—18] 30VFL FREDENBECK	1部リーグ
8/6	ドイツ	全日本23 [13—12 / 10—9] 21THE KIEL	1部リーグ
8/8	デンマーク	全日本25 [12—15 / 13—11] 26G.O.G.	92 チャンピオン
8/10	デンマーク	全日本32 [13—11 / 19—11] 22G.O.G.	92 チャンピオン
8/11	デンマーク	全日本18 [9—8 / 9—8] 16FREDERICIA	93 チャンピオン

個人得点

	橋本	林康	河野	田中雅	魚住	高木	梅基	末岡	田中茂	平松	佐藤	高田	渡辺	三輪	林昌	源内	永山	岩本	中山	合計
SPARTA IF					2	2	3	1	2				3	2	2	2		8		27
DICKEN					4	1	2	4	2			1	2	1	1	3		6		27
BK-46					5		2	3	3		1		1	1	2	3		3		24
FINLAND YOUTH NAT					4	1	2		1			1	2	5	1	4	2	6		29
TVB HAMBURG					4		1	3	6				1	2		3		4		25
VFL BAD SCHWARTAU					5		1	1	2			1	5	1	1	5		5		27
SG FLEN&BURG HANDEWITT	1				3			3	1		1		4	1		4			1	19
VFL FREDENBECK				1	3			2	2					1	2	6		5	4	26
THW KIEL					3			2	1				1	2	4	5		2	3	23
G.O.G.					2		2	3	3			1	2	2		7	1	1	1	25
G.O.G.					3	2		3	2	1	1	4	4	2	1	7		2		32
FREDERIUAHK					5	3		2	1		2	1		1	1	1		1		18
計	1			1	43	9	13	27	26	1	5	9	25	21	15	50	3	43	10	302

3、まとめ

93年度は国内スケジュールの中、限られた期間のトレーニングになっている。けれども、逆に言うと選手達は、普段休む暇もなく、自身の身体を鍛え上げよく努力していると言うことになる。今後は、アジアの各大会や世界選手権・オリンピック、そのアジア予選など国際大会が以前に比べ倍増しており、国内と国際大会のスケジュール調整を早急に実施しないことには（過去からの問題点かも）選手達の寿命を縮めることになり、敷いては日本が世界で闘い抜くだけのパワー不足になっていくと思う。ぜひ、日本協会とハンドボールを愛好する皆様の英知をお借りして、この事態を解決していただくようお願いをしたいと思います。

最後に、今回のハードな遠征での選手諸君の努力に感謝し、ヨーロッパ遠征のまとめとします。

明石が2年連続9回目の優勝

8月9日、10日の両日、米子高専を主管校として、第20回全国高専ハンドボール大会が、境港市民体育館・境港第2市民体育館で、開催された。全国8ケ所の地区からの代表校12チームが集まり、予選リーグと決勝トーナメントにより優勝を競い合った。

予選は、大会初日に3チームずつ4ブロックに分かれ、各ブロックでリーグ戦が行われた。前年度8年ぶり8回目の優勝をとげた明石は、地区大会では2位であったが、底力をみせ、危なげなく決勝に進んだ。

その他、持ち味の速攻を発揮した石川、地元開催で地区大会初優勝した米子、攻守にバランスのとれた豊田が決勝トーナメントに駒を進めた。以下、決勝トーナメントの模様を戦評によって振り返る。

▼準決勝

石川高専14 (8－4 / 6－8) 12米子高専

開始直後から石川は米子のポイントゲッター8番浜田にマンツーマンをつける作戦にでた。攻撃のリズムをくずした米子は数少ないシュートチャンスもミスしてペースをつかめない。一方石川は、米子GK1番吉井のふんばりでシュートがなかなか得点に結びつかないが、要所で6番塩谷のミドルシュートが決まり、徐々に点差をひろげていった。後半もマンツーマンをとる石川に対し、米子はディフェンスの隙をつくカットインからのシュートが決まりだした。終了10分前、勝負にでた米子は石川のポイントゲッター6番塩谷にマンツーマンをつけ、リズムの乱れた石川のミスを速攻につなげ点差をちぢめた。しかしあとわずかのところで時間切れとなった。(審判・早田博之、小澤敏正)

明石高専21 (9－10 / 12－8) 18豊田高専

前半30秒後、豊田が15番滝のロングシュートで先制、続いて明石2番藤原のサイドシュートなど点の取り合いが続く。明石11番田中のサイドシュートで流れが明石に傾くように見えたが、豊田15番滝のロングシュート、GK月山の好守も手伝い、最後まで予測のつかないゲーム展開となる。中盤から豊田の速攻が決まり、前半10－9と豊田のリードで折り返す。後半も前半と同じく得点の取り合いが続き、両者一歩も譲らない展開となる。20分過ぎ、明石2番藤原のサイドシュート、8番遊川のポストシュートと流れが明石に傾き、21－18で明石が勝利した。(審判・望月裕之、田中宏明)

▼決勝

明石高専19 (8－6 / 11－6) 12石川高専

石川は固いディフェンスからの速攻と相手ディフェンスのすきをついたロングシュート、ミドルシュートで得点を重ねた。一方、明石は、セットオフェンスからのフォーメーションプレー、正確なパスワークでディフェンスくずしてのカットインプレーとGK1番井原を中心としたディフェンスからの速攻で応戦し、決勝戦に相応しい見ごたえのあるゲームとなった。当初リードされた明石は10番芝山がリズムにのると徐々に挽回し、20分過ぎに逆転、2点差で前半を終了した。後半に入っても1点を争う緊迫したゲームが続いたが、明石キャプテン2番藤原が大事な場面で正確なシュートを決め流れをつかんだ。石川もよく守り5番助田、6番塩谷のミドルシュートで得点するが、チャンスにミスがでるなどして、リズムを乱し逆転する機会を失った。(審判・早田博之、進木丈実)

(写真)力強く選手宣誓をする米子高専主将の浜田悟君

〔予選リーグ勝敗表〕

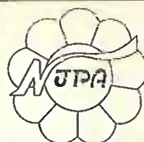
A	釧路	米子	鈴鹿	勝	敗
釧路	*	6―24	8―27	0	2
米子	24―6	*	15―9	2	0
鈴鹿	27―8	9―15	*	1	1

B	石川	宇部	都城	勝	敗
石川	*	21―5	27―14	2	0
宇部	5―21	*	16―26	0	2
都城	14―27	26―16	*	1	1

C	奈良	呉	豊田	勝	敗
奈良	*	22―21	18―29	1	1
呉	21―22	*	14―25	0	2
豊田	29―18	25―14	*	2	0

D	一関	明石	長岡	勝	敗
一関	*	14―27	11―20	0	2
明石	27―14	*	26―19	2	0
長岡	20―11	19―26	*	1	1





第22回全国中学校大会を終えて

(財)日本中学校体育連盟ハンドボール競技部長
真田　元

　平成5年度、中学生のチャンピオンチームを目指し、第22回全国中学校ハンドボール大会が8月19日から22日まで、奈良県生駒市にある生駒市民体育館をメーン会場に、市内の生駒市総合公園体育館とで「燃えよ若人、育め友情　古都奈良で」をスローガンに全国9ブロックと開催地代表の男女各20チームを集めて開催された。

　ここ生駒市は、9年前に「わかくさ国体」のハンドボール競技を開催された地である。又、市内にある生駒高校からは、かつて全日本チームで活躍した津川昭、大原真造、生駒靖夫選手が卒業していて、ハンドボールがとても盛んな所である。

　この奈良大会は、奈良県中体連ハンドボール部、生駒市中体連、奈良県ハンドボール協会で実行委員会を構成していて、前年度の福井大会にならい、大会運営の基本に中学生を位置づけ、少数の高校生の協力も得たが、式典、記録用紙記入、モップ、記録報道、大会準備、かたづけなどは全て生駒市内の中学生のボランティアによるものであった。

　この全国中学大会では、以前から参加チーム数の拡大が望まれていたが、今年度ついに実現できた記念すべき大会である。ただ決定したのが1年前ということで、従来の施設数、人員、日程のなかで行うことになり、一抹の不安もちながら、各方面の協力を得ることで無事大会の幕をあけることができた。

　大会は春のJOCカップ優勝チームの母体となった男子北海道の凌雲中学校と、女子富山県小杉中学校が優勝候補にあげられ、実力を見せつけたが、他チームのマークも激しく結局男子は茨城県水海道西中学校、女子は愛知県矢田中学校が本年度の中学チャンピオンとなった。

　男女38ゲームの中で特に印象に残るゲームをあげて行く。男子2回戦では、地元平群中対福島県石川中の対戦が平群の大応援団の中で行われた。すばらしい体格の石川対小兵・平群のスピードの戦いで、後半の平群の猛追により同点延長となり、その勢いで平群の勝利かと思われたが残り2分での2点差を石川中に追いつかれ、結局PTCで涙をのんだ。

　女子2回戦では、愛知県矢田中対山口県河内中の試合が、白熱したなかにさわやかさの残る好ゲームだった。特に河内中はエース藤長の活躍が目立たないチームワークの良さとディフェンスで、芝選手の両わきをかためる選手のフットワークが良く、基本プレーの実にしっかりしたチームであった。

　3回戦の好ゲームは、愛知県中部中対北海道凌雲中の対戦だった。中部は河原君のシュートが決まり押しぎみに進めるが、凌雲エースの三田君のずば抜けた高い打点からのシュートが決まりだし同点で後半を迎える。後半も中部が押しぎみだったが、三田君の9得点がものをいい、凌雲がからくも中部をかわした。男子準決勝では、松橋中は松本公君のディフェンスを翻弄するようなシュートで、凌雲中から12得点をかせぎ、決勝へ進出する。又、女子準決勝では、熊本県佐伊津中が矢田中と対戦し、前半の4点リードを追いつかれ、終了間際の速攻が着地となり、逆速攻でシュートを決められ僅差で涙をのんだ。

　男子決勝は水海道西中と松橋中で行われたが、大会が進むうちにチームのまとまりが良くなり、どこからでも得点できる総合力と松橋中松本君をうまくおさえこんで水海道西中が初優勝した。

　女子決勝は、スタミナにまさる矢田がキーパーの活躍もあり、小杉中を破り初優勝した。今年度は、体格よりもそれをカバーできるフットワークのあるチームが上位になった。来年に生かしてもらえればと思う。

　最後に、本大会開催のため御尽力いただいた関係機関等に厚く御礼申しあげます。

全国中学校大会成績

◎男子

▼1回戦

西朝明(三重) 20－12 片山(広島)
神森(沖縄) 17－14 港明(愛知)
呉羽(富山) 24－20 松葉(千葉)
松橋(熊本) 23－12 岩井(茨城)

▼2回戦

大正東(大阪) 28－15 友泉(福岡)
斑鳩南(奈良) 12－11 安宅(石川)
凌雲(北海道) 22－10 晴美台(大阪)
石川(福島) 17－17 平群(奈良)（2PTC1）
香川一(香川) 12－9 西朝明
水海道西(茨) 24－16 神森
中部(愛知) 21－14 呉羽
松橋 23－14 北河内(山口)

▼3回戦

大正東 20－8 香川第一
水海道西 24－10 斑鳩南
凌雲 14－13 中部
松橋 15－9 石川

▼準決勝

水海道西 16－14 大正東
松橋 18－16 凌雲

▼決勝

水海道西 21 (10－9, 11－9) 18 松橋

◎女子

▼1回戦

玉出(大阪) 14－8 芦屋(福岡)
水海道(茨城) 15－10 原川(大分)
河内(山口) 19－10 吉川中央(埼)
朝明(三重) 15－10 西條(富山)

▼2回戦

花園(千葉) 17－12 伊勢山(愛知)
豊中13(大阪) 11－5 総社西(岡山)
東根一(山形) 18－8 生駒(奈良)
上(奈良) 19－6 凌雲(北海道)
玉出 18－7 香川一(香川)
小杉(富山) 13－4 水海道
矢田(愛知) 14－11 河内
佐伊津(熊本) 24－6 朝明

▼3回戦

花園 10－6 玉出
小杉 11－5 豊中十三
矢田 11－6 東根第一
佐伊津 18－11 上

▼準決勝

小杉 16－10 花園
矢田 15－14 佐伊津

▼決勝

矢田 11 (4－3, 7－5) 8 小杉

第36回全日本教職員大会

——遠藤　健次

男子　香川が京都を下して2連覇達成！
女子　京都教員クが7年連続の偉業!!

8月8日より13日まで、愛知県の豊田市・知立市・三好町の二市一町において標記大会が開催されました。

本年度は第36回目を迎える教職員大会と初のマスターズ大会の併行開催でしたが、関係団体及び開催地の物心両面のご協力・ご援助のお陰で成功裡に終了できたことに心から感謝申し上げる次第です。

大会は男子48チーム、女子17チームの参加の中、男子ベスト16に東から4、中7、西が5チーム残り、準決には中2、西2チーム。決勝は昨年同様香川対京都の対戦になり、香川が2連勝を飾りました。結果としては西高東低というところです。

年々、平均年令の高くなる中で、富山・福岡・山口・愛知・栃木・福井教員チームの健闘は評価できます。

女子については、ベスト8に東4、中・西各2チーム、準決は京都対群馬、福岡対埼玉。多少男子と異った分布になったが、京都教員クラブは埼玉白小鳩を振り切り7年連続優勝の偉業をなし遂げました。

優秀選手選考は、第1戦からの審判員によって行われた投票を基に、連盟役員会で左記のように決定しました。

〈男子〉

GK高木優明、CP田中潤、河合哲(以上香川)、国分功、楠本繁生(以上京都)、疋田雅己(愛知)、澤井慎治(福岡)

〈女子〉

GK山本圭子、CP池上由美、楠本みゆき(以上京都)、石井佳代子、金子菜穂美(以上埼玉)、下野奈々(福岡)、荒瀬由美(群馬)

なお、特筆すべきことは、京都教員クラブの楠本夫妻が大活躍の結果優秀選手となったことであり、後に続く選手に大きな励みを与えてくれました。

本大会は日頃、児童・生徒・後輩の指導に当たり、各々の県での役割を果している者が大半で、単に勝敗を争うだけでなく、実戦を通して今後の指導に役立つプレーの研究の場ともなっているのです。

競技と併行して開催する研究会は、競技力、身体的な面、普及面等、各々の分野からの研究発表を行っており、この大会の特長ともなっている。今後は教職員に限らず幅広い分野からの発表の門戸を開きたいと願っています。

今回の日本ハンドボール協会初のマスターズ大会についてでありますが、今日まで長年、ハンドボールを愛好し、数多くの競技会に参加・活躍して来られた方々から開催希望がありました。本年、中京大学の全面的な協力と、愛知ATF、愛知県協会の指導助言を受けて開催することができたのです。まったくの手作り大会で、宿泊も中京大学学生寮を借り、男子5、女子4チームの総当りリーグ戦という張り切り様です。結果はオール三重、埼玉、ロイヤルスワロー、ATF、サンフレ広島の順となり、女子は中部ドリームズ、瀬戸内レディーズ、とべないカモメ、大阪ガンバルズといった順位になりました。

なお優秀選手については、対戦チームからの推せんを受けて選考されました。とにもかくにも事故がなく、しかも楽しいゲームとなり、このことがまさに生涯体育と申せるでしょう（詳細については愛知県角氏より報告）。本大会も希望があれば一般にも門戸を開きたいと考えています。

大会運営については、前にも述べていますが、各会場共準備は万全でした。役所・地域の方々のご協力、体育館の照度も申し分ありません。男子3位決定戦以降の松原大会副委員長の場内放送は好評であり、是非機会を得て聞きたいものです。なお、開催市町の負担軽減からも本部役員・審判員は各々の会場地に宿泊できればと思いました。

私共の反省としては、クラブ大会との関連で、本大会の出場の1チームがクラブ大会のブロック大会出場と重なり棄権扱いとなった件です。さらに連盟主催の研究会とマスターズの同時開催、また参加チーム数等、連盟として早急に解決を図って参りたいと考えています。

末筆になりましたが、本大会開催に当り愛知県協会、関係市町、中京大学並びに関係者の皆様に改めて心よりお礼申し上げ、愛知国体の成功をお祈りいたします。

インターハイに優勝して

富岡高校ハンドボール部

主将　栃谷則史

『日本一』という大きなメダルを授かることができ、僕達富岡高校のハンドボール部員は今一番の幸せ者だと思います。なぜなら、日本の頂点に立つことのできるチームは唯一たったの1チームだけなのですから。

全国各都県の厳しい予選を勝ち抜いてきた強豪チームの中で、部活動最後の桧舞台で見事にすばらしい花を咲かせることができ、今本当に喜びで一杯です。このインターハイで味わうことのできた感動と体験は、これからの僕達の人生にとって、とてもプラスになる材料だと思います。そして、このことを通して僕達ハンドボール部の一人一人が、『努力』すればそれだけの成果が得られるのだという確信と、最後の最後まであきらめない『忍耐力』の大切さを体得することができたと思います。このことを胸に何事にもチャレンジしていきたいと思っています。

ところで、僕達のチームは一般に言われる『普通のチーム』でした。しかし、この普通といわれるチームが『日本一』という快挙を成し遂げられたのも、良き指導者、良き仲間、そして何よりも良い環境にいられたことなどが大きな要因だと思います。

また、6月の地元での関東大会1回戦敗退という悔しさをバネとして、インターハイでは『必ず勝ってやる』『勝ちたい』という気持ちが、部員全員に芽生えてきたことも見逃せない要素だと思います。

勝つために、基本的な練習を繰り返し、ひたすら走り込み、速攻の練習をしました。迎えたインターハイ。まずは緒戦突破、そして決勝戦へと駒を進め、夢であったインターハイ優勝が、気がついたらすぐ手の届く所まできていました。終ってみれば大分電波を2点差で破って初の優勝を飾ることができました。

今でも夢を見ている気持ちで一杯です。地元に帰ってくると、周囲の温かい祝福を受けとても有り難く思いました。来年も後輩達に、是非すばらしい喜びを味わってもらいたいと願っています。

名古屋短大附高校ハンドボール部

日下部美智

平成5年8月1日、私達には、あっという間にインターハイはやって来ました。インターハイには、〝やり残した事はない〟という気持ちで、総合開会式に臨みました。

決勝までには、いろいろな事がありました。練習になくてはならない物を忘れるなどのミスをしてしまったり。忘れもしない三回戦、高松商業との試合。私達は、これ以上悪い試合はないと思うほどの試合でした。この試合があったからこそ、自分達が見失いかけていた基本的な事、ボールを回す、考えて自信のあるプレーする、ディフェンスからの攻防、相手よりも、という事を見直す事ができました。



この試合がなかったら……、と思うほどです。

優勝の瞬間、はっきり言って実感がありませんでした。ただ、普段どおりにやって、また明日も試合があるような、そんな感じがしていました。インターハイは、高校での三年間の一つの通過点であって、終わりではない。そんな事を言われていたからだと思います。私達は高校生であり、ハンドボールを通じてプレー以外の事も学んでいます。高校生として、卒業が終わりであって、スタートだと思っています。

決勝後に、先生からの試合での悪かった点の指導などがあり、まだまだ私達には課題があります。今よりもうひと回り大きくなって卒業したいです。

閉会式の後、ベンチに入れなかった仲間達が、私達に手づくりのメダルを贈呈してくれました。このメダルは、金メダルよりも何よりも代える事のできない大切な物となりました。こんな仲間がいたからこその優勝だと思います。

優勝できたのも、先生、先輩、父兄など、応援して下さった方々のおかげだと思っています。ありがとうございました。

第6回全国小学生大会に優勝して



沖縄県当山小ハンドボール部

高良大輔



第6回全国小学生ハンドボール大会県予選で、夢に見た全国大会への出場を決めた瞬間、とてもうれしかった。ここまでこれたのは、4年生の時からみんなで力を合わせて、毎日練習にがんばってきたからだと思う。

7月31日、全国大会の開会式に参加して、どのチームも強そうで緊張感がわいてきた。1回戦は初戦ということもあって、みんな緊張していた。でも、2回、3回戦と試合が進むと、補欠を出すなど余裕もあった。

全国大会では、男女アベック全国制覇を目標にしていたが、女子はベスト8で終わってしまった。

男子は決勝まで進出した。決勝戦では、前半で一方的な試合になったので、試合終了のベルがなっても「優勝」という実感がわいてこなかった。

しかし、閉会式で金メダルとタテを手にした時は、「優勝したんだなあ」と、うれしさがこみあげてきた。

考えてみれば、全国大会よりも沖縄での予選を勝ちぬくのがむずかしかった。特に、全国大会一度優勝の宮城小との試合は、接戦で苦しかった。

「全国制覇」という学校の先生や友達の期待にこたえられてよかった。そして、自分たちの目標であった「優勝」が達成できて、ハンドボールを続けてよかったと思う。ぼくたちはまた次の目標、12月の九州大会にむけてこれからもがんばっていきたい。

熊本県三佐ハンドボールクラブ

試合に勝って優勝した時を思いだすと、今でも本当に信じられないほどです。決勝戦の相手は、富山県の仏生寺というチームでしたが、この試合の前は、「とにかく勝っても負けても精いっぱいの試合をしようね」と、全員で約束しました。6年生8人のメンバーで優勝する事は、5年生の時からの夢でした。それが今かなったんだと思うと、うれしさでたまりませんでした。今度は、冬の九州大会に出場できるようにがんばりたいと思います。

大分に帰ってから、地元のラジオに生出演して話したみんなの喜びの声を再現します。

▼私たちは大分県代表で全国大会に行って、みんなで力をあわせて全国優勝という大きな目標を達成できてうれしかったです。（遠藤）

▼初めは信じられなかったけど、だんだん実感がわいてきて優勝したんだなあという気持ちが大きくなって大変うれしいです。（奥平）

▼練習をたくさんして、仏生寺の時に11点差で勝ててうれしかったです。（浜田）

▼みんなで優勝しようねと毎日の練習にがんばって県代表となり、全国大会へ行きました。決勝の時、悔いのない試合をしようと思い、優勝できてうれしかったです。（小野）

▼優勝した時は、今まで練習したかいがあったなあと思いました。（米村）



▼優勝するとは思わなかったので今でもとてもうれしいです。（幸か）

▼全国1位とは、まだ信じられないけど、優勝ができてうれしいです。（佐々木）

▼みんなでがんばって優勝できたのがうれしかったです。（福田な）

▼金メダルをもらってうれしかったです。（福田さ）

▼沖縄との試合は心配だったけど、全国1位とは今でも信じられないくらいうれしいです。（清水）

▼一生けんめい応援したかいがあってうれしかったです。（幸な）

▼応援だけだったけどうれしいです。（佐藤）

▼全国大会へは行けなかったけど優勝をきいてうれしかったです。これからは九州大会に向けて練習にがんばります。（三浦）

第1回日韓中ジュニア交流競技会

韓国・静石航空工業高校と対戦して

大分電波高等学校ハンドボール部監督　富松　秋実

男子

3年前、大分の地で韓国釜山市の東亜高校と対戦しておりましたので、韓国のチームとは2回目の試合でした。

前回は、3点差で敗れておりましたので「今回は」と意気込んでおりました。3年前の試合では、穴井(国士舘大)、宇多村（大同特殊鋼）と攻撃力がありましたが、今年は破壊力がなくディフェンス中心のチームですので得点を重ねていくのが困難に思われたので、8月25日に福島県郡山市に乗り込みました。25日から学法石川高校で練習をし、福島国体のハンドボール会場である石川町体育館で福島選抜と練習をして調整しました。

8月26日に、歓迎レセプションが行われ、緊張していた選手達も韓国、中国の選手と友情が芽生え、和気あいあいの中リラックスできたようでした。

いよいよ8月27日の試合当日、午前11時より練習予定でしたが、今まで韓国で練習をした自信なのでしょうか、それとも試合前に無駄なスタミナは使いたくなかったのでしょうか、韓国の静石航空工業高校の選手達は一切練習をしませんでした。

本校はと言えば、従来どおり試合前のウォーミングアップ、シュート等を行い、体育館の試合と言う事で両面テープを指に巻き試合にのぞみました。

午後2時50分に試合が開始されました。ふと、静石航空工業高校の選手の手元を見ると、両面テープを使用しておらず松やにを使用していました。

今年の韓国チームの特徴は、ロング・ミドルシュートで上から打ってくるのではなく、ポストカットインプレー、速攻の速さとテクニックのチームでした。ヨーロッパのハンドボールを取り入れており、毎日の練習の中でのフットワークで、基本プレーの繰り返しを根底におき、それに加え監督・コーチによるハーフタイム中の精神的な面の強化が選手を発奮させることで、後半の強さが出てきたようです。

日本では、高校のチーム数が多いため全国大会出場に向かって毎日の練習に取り組み、全国優勝を目標にしておりますが、韓国では国内の高校のチーム数が20前後と言う事もあってか、世界に向けての練習が行われているように感じられました。ですから、それがジュニア・ナショナルプレーヤーとつながっているようです。

日本でも、私達指導者がもっと世界を目標に絞り、ナショナルプレーヤーを育成するように練習を強化して打ち込んでいくべきだと思います。

最後に、今回の大会準備と進行のため、ご尽力頂きました福島県ハンドボール協会及び関係者の皆様に心より感謝致します。

韓国との交流で学んだこと

名古屋短大附属高校監督　大橋　晃

女子

8月26日～28日に、福島県郡山市で第1回日・中・韓ジュニア交流大会が行われた。ハンドボール競技は、日本と韓国の2か国で競技会を実施した。

結果は34－18の惨敗であった。私が本校に就任して5年目になるが、それまで韓国の高校生チームとは何度となくゲームをした経験がありましたが、このような結果ははじめてです。

試合終了後、ホテルへ戻り、通訳の人を介して素晴らしい時間を過ごしました。

その内容を紹介します。韓国側は、徽慶女子高校コーチ・朴裁秀氏（ソウルオリンピックナショナルチームコーチ）、静石航空工業高校コーチ・林圭夏氏と通訳と私の四人である。

先ず最初の質問の前に通訳の方の配慮で、「今から日本の監督さんがいろいろなことを聞きたい」と言っているが、聞いても失礼ではないかと言う質問をしてくれた。答えは「もし、私がその質問に答えないとするなら、韓国のハンドボールはこれ以上伸びないだろう。だから何でも聞いてくれ」と言う答えだった。続けて「バルセロナ

オリンピック以後、ナショナル監督はスペインでセミナーを行っている」そしてまた「我々は常に何がよいのか、何が悪いのか、何人かでディスカッションを開き、常によいものを考えている。そして自分が分っている良いものは全て教える。また教えられる」

この内容を聞くだけで、私は胸が一杯であった。韓国のハンドボールが、どのチームを見てもだいたい同じ様なハンドボール[illegible]るのは何故か、また、代表選手のほかに常に何十人の同じレベルの予備軍がいることも分ったような気がした。

そしてもう一つ、今回の試合で徽慶の1年生センターの凄さには驚いた。日本で1年生と言えば、高校に入学して約5か月で、高校のハンドボールになれた頃で1人前とはいかないものだが、その1年生に私のチームのディフェンスは翻弄された。韓国は、新しい選手を育てる、また選手層の厚さに何かがあると、私は何か得たものがあるような気がした。

練習時間について聞いてみた。練習時間は約5時間。1時間ランニング、2時間フットワーク、1時間パス・シューティング、1時間コンビネーションの計5時間。時間帯は3時～8時。施設について、「日本は、体育館で練習をしないのがだめ。[illegible]の使用、体育館の使用をすることが必要」こう語った。

約2時間の会談で、国を越えた交流を結ぶことができ、ハンドボールだけではなく、人間的に交流できたことに私は非常にしあわせだと感じた。

この体験を生徒達に正確に伝え、今後の指導に役立てたいと思います。有難うございました。

ドイツ研修レポート

スポーツ施設と環境について

田口　隆

今回は7月23日から8月12日の間、全日本男子チームのヨーロッパ遠征（フィンランド・ドイツ・デンマーク）に帯同し、いろいろな施設を見学することができました。そのことから今までの自分自身の体験も含め、施設の利用に関してレポートします。

まず、今回の遠征でのフィンランドの宿舎としては、ソルバラというところのスポーツ施設を利用しました。ここはホテル並みの部屋と、バイキング形式の食堂、そして体育館、ミーティングルーム、サウナなどがあります。そして、周り20kmくらいは民家がないという事でした。

私たち日本人は、日本ではいろいろな娯楽に接している事から、少々寂しさも感じはしますが、もっと考えるならば、今日本の現状から言えば、合宿の期間もあまり多く取れず、十分なトレーニングに出来ない事からも、短期間でより集中してトレーニングが出来るところとしては最適ではないだろうかと思いました。

今回の遠征での最初の地、フィンランドの様なところでトレーニングを積む事が出来て、また多くの選手間でのミーティング等の時間を持った事は、その後のゲームで多くの収獲を得た源となっていた様な気がします。

ここフィンランドだけではなく、私の選手時代もスポーツシューレと呼ばれるスポーツ学校の施設を使う事がありましたが、生活は快適で、その他の環境も良く、満足するものでした。またこれらの事で、一番良く思えたのは、ナショナルチームがトレーニングする場が、他の人々も共に利用する場であるところが良く私には映りました。というのは、日本では今、ナショナルチームが日本で試合をする機会に恵まれず、人知れず活動している様に思えてなりません。それがみんなと共用の場を使う事によってトレーニングを見る事も容易であり、また自分たちのスケジュールの上で前後にナショナルチームのトレーニングが入っていたりすると、とても身近にナショナルプレーヤーを感じる事が出来るのではないでしょうか。

ドイツの多くのクラブは、ジュニアの選手もトップの選手も皆同じフロアを利用し、トレーニングをしています。ジュニアの選手に言わすと、トップで一線で活躍する選手たちは、憧れではあるが、遠い存在ではないと言っていました。私も、多くの少年たちがナショナルプレーヤー（一流プレーヤー）を目指す意味では、とても良い事と思いました。ナショナルチームが充分な環境でハンドボールに集中出来る場と、ナショナルプレーヤーを目指す人々が、より多く生れる事を望み、今回の報告とさせて頂きます。

時には激しく夫婦が衝突!!

富山県高岡市
大房重則・恵美子



私の28人の息子はきかん坊ばかりの高校生。体力と気力は有るほうで、遊びたい盛りの年頃なのに激しい練習に食らいついてくる。時には私に雷を落とされたり、反抗したり、勉強と部活の両立で悩んだり叱られたりの毎日である。私たち夫婦には中学生の娘も沢山いるが「教育」はもっぱら妻の役割だ。息子と同様、やはりそちらも似たようなものだろう。

などと偉そうに彼らの『親』と話わせてもらったが、土日、休日も含めて大房家にいる3人の息子たちより一緒にいる時間が多い。仕事だと片づけてしまえばそれまでだが、こんな生活を毎年続けている理由を聞かれたら「親だから」としか答えられないのだが、いかがなものだろう。それにしても、「子育て」のなんと難しいことか。つい余所の子と比べては喜んだり、腹を立てたり……親としての器量をいつも試されているようだ。

ところでこのような大義名分を振りかざして、いつも留守がちな私たち夫婦に代わって家を守っていてくれるのは、私の両親である。

チーム作りに精を出される皆さんのご家族の陰のご苦労は、両親を見ていて身につまされる思いがする。感謝でいっぱいである。また子供たちにも寂しい思いをさせているだろうし、「よその子ばっかり!」と文句が出てもしかたがない状態である。『反面教師』という便利な言葉で言い逃れさせてもらっている。そんな中で、中学生の長男はハンドボール部に入った。力の程はまだ何とも言えないが、しみじみとうれしいものである。彼も「ハンドボールの親」を見つけて、大きく育ててもらいたいと切に祈っている。こうして、わが子をチームの監督に託す親御さんの気持ちを身を持って味わい、改めて身を引き締めて、チーム作りをしていこうと思っている。

沢山の個性的な息子、娘を持つ私たち夫婦は幸せ者である。欲を言うなら、かつての娘たちのように、大きな大きな親孝行をしてくれないだろうか……。

今年のインターハイ県予選決勝で、夫はイエローカードを出された。場内が一瞬静まりかえって誰もが監督である夫に注目し、ざわめきと共にまたゲームが再開されたが、私は胸を突かれるような思いで彼を見ていた。

結婚して16年。お互いにハンドボール部の顧問として「同じ目的を持って同じ道を歩けていいですね」とよく人から言われるが、必ずしもそうとは言えない日々だった。

私は相手が中学生女子ということもあり、ハンドボールを通して、彼女らに耐えること、人を思いやること、自分を鍛え高めることを指導したいし、その中で勝つ喜びを分かち合いたいと思っている。結果は後から付いて来る——と考える私から見ると、高校男子を率いる夫の勝負へのこだわりは並大抵ではなく、時には夫婦として激しくぶつかり合うこともあった。同じ種目のチーム作りをする者だからこそ、相手の一言が感に触ることもあると思う。たしかに、この富山県で伝統校を打ち破り、なおかつ全国を目指すことがどの位むずかしいことか。「きれいごとなど言っていられない」と言う夫の叫びを、イエローカードで聞かされた気がしたのである。もちろん本人は試合後反省していましたが。

部員集めに始まって、遠征、合宿、寮で生活する部員の生活指導、進路指導までいろんな方々の協力を頂きながら、夫も私も一年中をほとんどハンドボールで過ごしている。それは私たちにとってとても幸せなことだが、家族からはいつイエローカードを出されてもおかしくないと、内心ビクビクものなのである。

第4回 山中湖高校オープンチャレンジカップ大会

(株)エモック・エンタープライズ　田川　正明



第4回目を迎えましたこの大会も、回を重ねるごとに盛大な大会に発展しております。今大会も男子24チーム、女子14チームの合計38チーム、選手・役員・参加人員650名という規模で、8月14日より18日迄の4泊5日間の開催を実施しました。

参加締切日を過ぎても申込みが殺到し、多くのチームの皆様にお断りしなければならない事態となりました事を誌面をお借りしましてお詫び申し上げたいと存じます。

そもそもこの大会はハンドボール大好き人間が集り、ハンドボール界の発展の為に立ち上がり、高等学校の先生方のご要望をまとめ、『夏休み期間に、良いコートで良い審判で、行き届いた環境の基で開催する』という主旨の基に開催しております。

残念ながら今年の大会は全国的な冷夏、異常気象となり、この山中湖も悪条件下での開催となり、連日、雨と霧に悩まされましたが、コート状況を見ながら1日平均4試合の練習マッチを消化することができました。

全国のそれぞれ違った特色のあるチームと沢山のゲームができた事で、参加各チームはそれぞれの収穫があったとの評価をいただく事ができ、主催者としましてもホッと胸をなでおろしました。

又、期間中に欧州強化遠征から帰国したばかりの男子ナショナル監督の蒲生晴明氏、コーチの関健三氏が短い休暇の中にもかかわらず、大会に駆け付けて頂きまして、雨模様のコートで基本動作を中心にディフェンス、オフェンスにわたって熱心にご指導いただきました。

更に練習試合の審判も快くお引き受け頂き、試合終了後、更に試合を振り返ってそれぞれの動作のチェックをして頂くなど、非常に有意義で中身のある大会にすることができました。何よりも元全日本の中心プレーヤーに直接指導していただくチャンスはなかなかそうはないので、言うまでもなく参加者達の目が何よりも輝いていたことは非常に印象深いものがありました。

こういったこれからの日本ハンドボール界を支えて行くだろう人材が一堂に会し、日頃滅多にない機会が与えられる事で更にハンドボーラーの夢が大きく花開いて行くならば、時間をみつけてどんどん、どこへでも飛んで行って指導したいと両氏が熱く語っていたことに痛く感激させられました。

試合後は選手に取り囲まれて大サイン会になりましたことはいうまでもありません。こういった企画は、日頃ハンドボールに励む選手に夢と希望を与えるばかりでなく、必ずやJリーグ並みに全国にファンも拡大していく礎になっていくものと確信することができました。

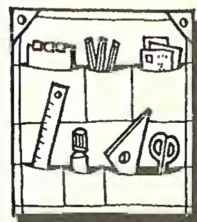
大会開催に当り、鈴木亮一先生(私立明星高校)、渡辺靖弘先生(私立横浜商工高校)、佐野和夫先生(全日本教職員ハンドボール連盟副会長)の各先生には絶大なるご協力を賜りましたことと、審判団におきましては浜田浩和先生(全国高体連ハンドボール部事務局)を始めバルセロナ審判の島田房二先生(都立富士高校)、後藤登様(自営)、その他、沢山の皆様方には改めて深く御礼申し上げます。更に神戸女子商業高校、高岡広陵高校、八日市高校などの地方各地からのご参加をいただきましたことも感謝に耐えません。

その他、国体を目指す東京選抜、群馬選抜、神奈川選抜、滋賀選抜、山梨選抜などの各県の選抜チーム強化の場としてもご参加いただきました。

来年の第5回大会は同期日で男女でおよそ65チーム、1200名ほどのハンドボーラーが山中湖に集結予定です。

私たち裏方も尚一層の努力で、できるだけの好条件で選手がプレーできるよう、更に研鑽する覚悟で、第5回大会に臨みたいと思います。

国際情報



オセアニア大陸から

シドニー2000を待っている

オーストラリアのハンドボールプレイヤーは2000年オリンピックの開催地のIOCの決定を興奮したおももちで待っている。「もしシドニーが選ばれたらハンドボールはついにそのウオールフラワー（壁の花＝舞踏会でダンスの相手のない人）の地位を失うだろう」ということをアレクサンダー・サーシャ・ディミトリック（オーストリアハンドボール連盟会長）は信じている。ディミトリックは、有名で成功した50歳のユーゴのコーチでありプレイヤーであるが、彼は第5番目の大陸のこの大きな依託に感謝して2、3の山のようなものを動かしてきた。しかし、小さな連盟はその発展の次のステップとして外側からの援助（例えばオリンピックのハンドボール選手権）を必要としている。

その大きな国に活動している900人のハンドボールプレイヤーがいる。試合は4つに分割した組織の中で行っている。全体の選手権大会は過去3年の間開催されてきた。今年はブリスバンで開催される。900人の競技人口は多くない。しかし、希望が若いひとで才能のある人がいるので希望がある。ディミトリックによって広められたプログラムはその最初の果実を生みだした。‥小、中、高等学校で8000人の子供や若い人が規則的にハンドボールをプレイし、最近25チームがシドニーで学校選手権大会で試合をした。ディミトリックはこれらの若い人の多くがハンドボールに本当に残ってくれるだろうと楽観的にみている。‥「オーストラリア人はボディコンタクトの多い何か荒いゲームが好きである。」ラグビーはチームスポーツナンバー1である。

我々は物事が混ぜ込まれないように望んでいる……。

他の国のように、ナショナルチームは、メディアやスポンサーの間でいくらかの熱狂をかり集めるために、試合に勝たなければならない。しかし、徐々にしか成功はしていない。日本が1985年タヒチでのパシフィックカップに優勝して以来、いくらかの注目すべき結果は（例えば香港と中国において）あった。

ディミトリックはオセアニアのハンドボール連盟の基金で多くの試合が出来ることを望んでいる。しかしアジアの強い競争に対抗して勝負出来るようにするためには、連盟はより多くのお金を必要としている。10000ドルの昨年の予算は韓国、日本または中国への多くの遠征に支払うことが出来ない。ヨーロッパからのスターコーチやプレイヤーは発展の手助けにきても全く問題外であるが、その間中はオーストラリア人になってくれた。いくつかの場所に移住しーエンジニアのディミトリックのようにーそして新しい家庭でハンドボールをしたり教えたりして貢献した。‥名誉的な抱擁力と倹約した時間の中で。

バルセロナの大会において、サーシャ・ディミトリックはオーストラリアハンドボールのためにたゆまなく働いた。オーストラリアテレビのスポーツキャスターの一人は母国にハンドボールが放映されるように時間を惜しんで戦った。‥「あなたはこのスポーツが如何にダイナミックで速いかをスポーツクレイジーのオーストラリア人に見せるためにあらゆる機会を、しかしながら小さいが、使わなければなりません」

大変ポピュラーな水泳や陸上の間にハンドボールを時々見せるように番組編成のマネージャーを納得させることは並み大抵の仕事ではない。「しかしもしあなたが同僚を納得させるなら、いくらかの点でまた他のオーストラリア人を納得させることが出来る」、と笑いながらコメントした。家庭であるがシドニーにある最近オープンした連盟の事務所で、彼はオーストラリアハンドボールを助けるために名案を出し続けるだろう。「何年か立ったら、我々は、ほとんどそれをうまく取り扱っている」と彼は話している。そしてかれはもしシドニーが本当に選ばれたら、その言葉「ほとんど」を取り徐くことが出来るであろう。

（ワールドハンドボールマガジンより）

世界の競技人口と歴史

1992年オリンピック大会とバルセロナでのIHF総会に向けて、IHFがIHFとその加盟国の紹介のために作成した小冊子「Handball 2000」がある。全てを紹介できないが、その中でいくつかを紹介したい。

世界のハンドボール チーム及び競技人口数

（1990年男子、女子、青年）

●世界の競技人口・チーム数の総数

プレイヤー数1200万人
チーム数　57万チーム

●各国のハンドボールプレイヤー数ベスト10

1	旧ソ連	1387000
2	ドイツ	1131000
3	チリ	572000
4	フランス	500000
5	デンマーク	310000
6	スペイン	232000
7	ユーゴ	231000
8	中国	214500
9	香港	201200
10	オランダ	201000
	日本	128500
	韓国	6550

●チーム数ベスト10

1	ドイツ	98000
2	旧ソ連	77000
3	フランス	40000
4	デンマーク	23500
5	スウェーデン	20000
6	キューバ	16550

7	チュニジア	16300
8	スペイン	14500
9	ノルウエー	11500
10	サウジアラビア	9400
	日本	7150
	韓国	520
	北朝鮮	300
	中国	8500

(注)日本の登録数は以下の通りであり、IHFが示す数と異なっている。算出の基準が定かでないので、世界の競技人口を知る上での概数とみてほしい。

日本の登録競技人口(H・5)は

一般	9668
学生	5639
高専	662
高校	49144
中学	28513
計	93626

日本のチーム数

一般	615
学生	320
高専	33
高校	2563
中学	1163
計	4694

中学校の数値については日本協会への「登録」が始まったばかりなので、登録していないチームがまだあり、実際にはもっと多い事が推測される。(H5年8月現在)

ハンドボールの歴史

●ハンドボールの始まり

現在の形式に於けるハンドボールは、歴史的には波乱が多くある。著名なハンドボールの歴史家は言っている。ハンドボールはフットボールよりもっと古いゲームと見なされることである。‥この推測に対して言われている多くの事がある。例えば、人は何時も足よりもっと手を器用に使用してる。ハンドボールの原始的な形は20世紀のハンドボールとは全く違った形をしていたに違いない。‥古代ギリシャ人の「ウラニアゲーム」(ウラニア・ギリシャ神話 天文の女神)がオデッセイの中でホーマーによって述べられている。ローマ人の「ハルパストン」や中世のボールゲームは「ハンドボール」ゲームであり、近代ハンドボールの原型である。

(注)「ハルパストン」‥ローマの医者クラクディウス・ガレヌス(紀元前130~200)によって物語られている。

「中世のボールゲーム」‥フォーゲルワイドのワルザーによって誉めたたえられた「ファングボール競技(ファング‥牙)」

●屋外ハンドボールのパイオニア

ドイツ人のスポーツインストラクター達が屋外ハンドボールの創立者と考えることが出来る。‥彼らは「ラフボール」と「ケーニッヒスベルゲルボール」を紹介した。(コランド・コッホ、1846~1911)そしてそれで屋外ハンドボールはそれ自身の特徴を持ったゲームとして世紀の変わり目に活気づいた。

(注)屋外ハンドボール‥現在のサッカーとほぼ同じ大きさの競技場とゴールで行われる11人制ハンドボールの事

▼1912年

ヒルシュマン(ドイツ)は、その時国際フットボール協会の理事長をしていたが、屋外ハンドボールの普及に努力していた。

▼1919年

カール・シュレンツ、ベルリンのスポーツインストラクターがヨーロッパでの屋外ハンドボールについて刺激的な関心を呼ぶのに成功した。

▼1926年

IAAF(国際アマチュア競技連盟)の総会は国際的な接触を可能にするために、基準化されたハンドボールのルールの問題点を試験するために特別委員会を指名した。

▼1928年

アムステルダム‥IAHF(国際アマチュアハンドボール連盟)がオリンピック大会時に創立された。‥前IOC会長アベリー・ブランデージ(USA)は創立メンバーの一人である。

▼1936年

23か国がIAHFに加盟した。初めてハンドボールがオリンピックで競技された。ドイツが屋外ハンドボールで優勝した。2位はオーストリア、3位はスイス。

▼1938年

最初の屋外ハンドボール世界選手権大会がドイツで開催された。(10カ国、1位・ドイツ、2位・スイス、3位・ハンガリー)

▼1946年

コペンハーゲン‥8か国‥デンマーク、フィンランド、フランス、オランダ、ノルウエー、ポーランド、スウェーデン、そしてスイスがデンマークとスウェーデンによって招待され、新しい組織、IHF(国際ハンドボール連盟)を創立した。

(注)日本は1952年ヨーロッパ以外からの初めてのIHF加盟国になる。加盟順位では20番目

▼1985年

約20万チームと450万人以上のプレーヤーを持つ96か国の連盟がIHFに加盟した。

●新しい傾向

今日、屋外ハンドボールはただ3か国で競技されている。ドイツ、オランダ、スイス。しかしこれらの国でさえ屋内ハンドボールはより大きな基盤を獲得している。そして屋外ハンドボールは殆ど消えているように思われる。私達はこの発展を残念に思っている。‥なぜなら屋外ハンドボールは明らかに競技的な価値を持ったゲームである。そしてそれは屋内ハンドボールに対する貴重な基礎と考えら

れる。屋内ハンドボールと共に、屋外での7人制ハンドボールは特に東や北のヨーロッパで基盤を獲得しているが、そこでは地方の状態がこの種のハンドボールの発展を支援している。

●ハンドボールの構造上の問題

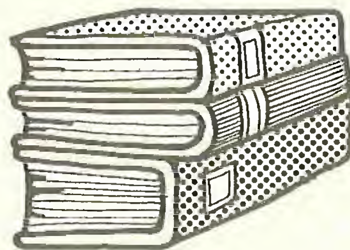
36年後ハンドボールは再びオリンピックのプログラムになった。‥屋内ハンドボール、勿論！　そして屋内ハンドボールはオリンピックに許可された価値を証明しなければならない。それでIHFの技術委員会は加盟国の定期的なコーチのシンポジウムを組織した。‥1966年マグリンゲンの連邦スポーツ学校で。1970年ストックホルムのソルナで。ハンドボールは両コースで大変注意深く研究された。‥フィルム、講義、そして実践的なデモンストレーション、ディスカッション、そしてゲームのあらゆる異なった側面の更なる研究がハンドボールの現在の構造を分析するために、将来の発展について新しいアイディアを開発するために、そして将来のハンドボールの構造上のアウトラインを作り上げるために参加者によってなされた。ハンドボールのトレーニングと指導、プレーヤーのトレーニングが最近の科学的な知見によってなされた。ゲームの文化的な又道徳的な価値と同様に競技的な価値がハンドボールを世界に認めさせるスポーツにした。

競技ルールの安定性と継続性のある一定の評価をするために、1976年エストリルでの総会は、ルールの変更がオリンピック年に開催される総会ごとに4年間隔でなされるべきであると言う決定をした。何か変更の提案はオリンピック大会の間の年に開催される総会にその仕事を委ねるべきである。その時、スタディグループによってディスカッションがなされ技術委員会で検討され最終的な形に作り上げられる。それからメンバー国のまえに再び出され最終的にオリンピック大会の年に開催される総会での理事会で批准される。同時に技術委員会によって成し遂げられるべき仕事の重要な点が決定される‥このことは発展途上国のインストラクターのトレーニングや全ての加盟国の国際レフェリーの選出やトレーニングを引き出すことになる。

〈翻訳者注〉

歴史は、語る人あるいはその人の国籍によって、見る観点が異なってくる。従って大筋は変わらないものの細部では通説でない面もでてくることがある。これはIHFが世界に紹介している歴史の概略として見てほしい。（大西）

新ルールブック
販売予告



1993年のルール改正に伴い、新しいルールブックが10月に発刊予定です。

今回はルールブック編とハンドブック編の2冊に分けました。

ハンドブックにつきましては、後日お知らせ致しますが、ルールブック販売は次の通りです。

記

1．申込み　都道府県協会単位でまとめて所定の用紙で申し込む。

2．価格　1冊　1000円

AHFの 組織紹介

加盟国
1.バングラディッシュ
2.バーレン
3.中　国
4.香　港
5.インド
6.イラン
7.イラク
8.ヨルダン
9.日　本
10.キルギスタン
11.韓　国
12.サウジ　アラビア
13.クウェート
14.カザフスタン
15.レバノン
16.ネパール
17.オマーン
18.ウズベクスタン
19.パキスタン
20.パレスチナ
21.フィリッピン
22.北朝鮮
23.カタール
24.シリア
25.トルクメニスタン
26.中華台北
27.アラブ首長国連邦



アジアハンドボール連盟(ASIAN HANDBALL FEDERATION)

略称AHFはアジア各国のハンドボール協会で構成されています。1976年に設立され、現在の加盟国は27か国です。本部はクウェートにあります。

組織

総会　各加盟国代表、理事、IHF代表によって構成された最高の決議機関で原則として2年に一度開催される。

理事会　会長、第1、第2副会長、専務理事、財務担当理事、理事6名、合計11名によって組織され定例会議は年に1回開催される。

常務理事会　連盟の委員会の監督。連盟の政策、財政、技術に関する問題の統制を行うことを目的とし、会長、第1副会長、専務理事、財務担当理事によって構成する。定例会議は6か月に1回開催する。

委員会　理事会によって次の委員会が編成されている。

競技、組織委員会
競技規則、審判委員会
コーチング、技術委員会
広報、普及委員会
医事委員会

■役員

会長	SHEIKH AHMED AL FAHFAD AL AHMED AL SABAH	クウェート
第1副会長	KIM CHONG HA	韓国
第2副会長	AHMED AL FARDAN	アラブ首長国連邦
専務理事	SYAD ABUL HASSAN	パキスタン
財務担当理事	BADER M.AL DHYAB	クウェート
理事	ABDUL WAHED J.M.AL SUMAITY	カタール
〃	SHI TIAN SHU	中国
〃	ABDULLAH ABU NAWAR	ヨルダン
〃	渡邊　佳英	日本
〃	ABDOULAH SHAABAN BIN M.AL FARSI	オマーン
〃	MOHAMMED ABDUL HAMEED	バングラディッシュ
事務局長	AHMED ABU AL LAIL	クウェート

■委員会

編成、競技委員会(略称COC)

委員長	AHMAD AL FARDAN	アラブ首長国連邦
委員	SHU RYP KYU	韓国
〃	IBRAHIM ABDUL RAHIM MUSA	カタール
〃	ABDUL RAHMAN ZAFAR	サウジアラビア
〃	井　薫	日本

指導、方法委員会(略称CCM)

委員長	CHANG WEI	中国
委員	JASAM MOHD DAYAB	クウェート
〃	ALI MOHD AMIRTASH	イラン
〃	AMIN BIN A.AL BERWANY	オマーン
〃	大西　武三	日本

競技規則、審判委員会(略称PRC)

委員長	PARK CHUN JO	韓国
委員	KHALAF NASER AL ANZI	クウェート
〃	CHEN LIANG	中華台北
〃	KHAMEES SALMIN	アラブ首長国連邦
〃	JALIL ASAD MIRZA	バーレン

広報、普及委員会(略称CPD)

委員長	MARWAN ARAFAT	シリア
委員	JUNG IN-HI	韓国
〃	MOHAMMED ALI HUSSAIN	アラブ首長国連邦
〃	MOHD SHAFIQUE	パキスタン
〃	JABER SALEM J.AL HARMY	カタール

医事委員会(略称MC)

委員長	MUSTATAB AHMED	パキスタン
委員	SAMEER MAHAREB	クウェート
〃	MARWAN DAYOUB	シリア
〃	RAJAI NAFAA	ヨルダン
〃	西山　逸成	日本

委員会報告

スポーツ医科学委員会

平成5年度 スポーツ医科学研究報告

スポーツ医科学委員長　西山　逸成

スポーツ医科学委員会が男女ナショナル選手を主対象として実施した研究内容は、①男子・女子選手の体力測定結果とトレーニング処方の方向、②男子・女子選手のメディカルチェックの結果とスポーツ傷害の現況、③男子・女子選手の心理調査とカウンセリングの方向についての3項目である。

一、男子ナショナル選手の体力現況からみたトレーニング処方の方向

従来から男子選手の競技力向上からみた体力づくりの方向として、①外国選手の高さ・パワー・スピードを越えた動きのできる体力、②技術向上のための強靱な筋力（背筋力指数は体重の3倍水準の躯幹筋、握力指数は体重の1倍の屈指筋）、③有酸素パワー・無酸素パワーは、現有水準の10～15％以上の向上、④傷害予防上から、身体各部の伸展／屈曲のバランスのとれた拮抗筋づくりと各個人の技能を助長するための筋力づくり、が挙げられていた。しかしながら、体力測定結果（平成3年10月）から現在の体力水準をみると、有酸素的持久性（最大酸素摂取量57・1±4.5 mℓ／kg／min 12分間走能力約3000換算値）は更に向上が必要である。ハンドボール競技の特性として試合中の平均心拍数が150～180拍／分であり、血中乳酸値が4mMを超える高値を長時間継続することからも、是非強化努力を望みたい。また無酸素的動きとして、シュート、ジャンプ、スタートダッシュ、ストップターン等の激しい動きが強要されることからも、今回の最大無酸素パワー平均が1000±110w／kgの水準では、前チーム平均1170watts、14・6W／kgに比してもかなり低値である。この弱点は、性格、パワーに勝る外国選手や同じ体型水準でありながらスピードと全身持久力に勝れているアジア選手と比較するときに、筋パワー、無酸素パワーの向上がチームづくりの基本的条件とも考えたい。

また筋力面をみると、各選手が筋肉量の増大のためのトレーニング努力が定着しつつあるとはいえ、背筋力が188±26kgであり、全チームの195kg水準以下であり、握力に向上はみられるものの、屈腕力、上腕伸展筋力（ベンチプレスは体重の1.5倍目標に対し1.2倍）、下肢筋力（スクワットは体重の3.0倍目標に対して2.4倍）は前チームより低値であった。

とくに重視すべきこととして、下肢の屈筋力（ハムストリング）／伸展筋力（大腿四頭筋）の拮抗筋比は下肢筋傷害予防の65％水準に及ばない選手が延べ33名中24名と多い。またメディカルチェック結果からみても、下肢傷害のない選手に拮抗筋比65％以上の高い傾向がみられている。

二、女子ナショナル選手の体力現況からみたトレーニング処方の方向

平成4年7月の測定結果から、その体力づくりの方向として機能面では、背筋力、握力、そして全身持久力の指標としての最大酸素摂取量ともに有意な向上はみられないのみならず、新チームとして若年化したとはいえ、前ナショナルチームよりかなり低い体力水準と総括されている。

平成5年7月の測定結果を1年前値（平成4年7月）と比較すると、ナショナルチームとして高水準を示した1991年度（バルセロナオリンピック予選）チームに未だ及ばないものの、背筋力、全身持久力に向上傾向が認められてきたといえよう。ベンチプレス（上腕伸展筋力）、スクワット（下肢筋力）ともに筋力と筋持久性は着実に向上している。しかしながら男子と同様に下肢の屈筋力／伸展筋力にみる拮抗筋比が65％に及ばない選手が多いため、メディカルチェックにみる下肢筋傷害者が、受検者19名中12名と多い傾向がみられる。

以上、要約したように、男女ナショナルチームの体力づくりの方向は、アジアチャンピオンとしての戦える軍団に向上するためには、体力づくりを放棄しない限り、男女ナショナルチームのスタッフの中に「トレーニングドクター」としての位置づけをすると共に、年間を通じてコンディショニング面で監督の補佐が責務であろう。

日本リーグ委員会

前期の活動状況

第2回日本リーグ委員会を7月31日㈮に開催いたしましたので、ご報告をさせていただきます。ご存知の様に日本リーグ委員会は、日本リーグ運営委員会をサポートしつつ、日本ハンドボール協会の重要な活動であり、且つ財政面でも大きなウェイトを占めているリーグを、より活性化させるために本年より発足させた委員会であります。

メンバーは日本協会の主要な役員、リーグ運営委員会の経験豊富な人々、そしてリーグのチームを持っておられる企業の役員の方々からなっており、多角的な見方より意見交換をしていただこうというものです。この機関誌の読者の皆様からもどしどしご意見をいただければと思っております。

さて第2回委員会は、まず6月1日から行われ、7月13日に終了した日本リーグ前期についての報告が行われました。この前期は何んといっても、日新製鋼・西山選手のリーグ通算得点新記録でありました（記録等は既にご存知の通りですから割あいさせていただきます）。この記録達成をハンドボールのニュースとして大きくマスコミにアピールし続けてきましたが、今回の各社の対応振りには大いに

その情宣活動に成果があったと思っております。その他、大型新人である三陽商会の岩本選手の登場、男女共にの激戦等、大いに盛り上ったシーズンとなったと思っていますが、観客動員数は横這い状態になっており、開催場所、日時、動員努力等、まだまだ工夫がいるとの反省が話題となりました。

次に、昨年初めて取り入れられたリーグプレイオフ大会は、今年度も引続き11月27、28日に行う予定で、何んとしてもテレビ中継を再度実現させ、広く多くの皆さんに楽しんでいただきたいと思っています。財政面ではリーグ加盟各チームに多大な負担をかけていますが、皆さんのご協力で是非盛大な大会としたいと決意しております。委員会においても各企業の投資効果について議論されましたが、盛大な大会を実現することで、それに報いたいと思っております。

次に来年のアジア大会、世界選手権予選へ向けてのナショナル強化と日本リーグスケジュールについて議論され、本年後期より来年19回大会を含め、リーグとしてナショナル強化に全面的に協力するスケジュールを検討することとしました。いずれにしてもこの経済環境の厳しい中でより充実したリーグ運営をすべく、大いに議論し、発展を目指して行きます。皆様のご支援ご協力、そしてご意見をよろしくお願いいたします。

具体的には、男子において9月24日から10月5日に行われる第7回アジア選手権大会（バーレーン）の日程が急遽決定され、日本リーグ後期1、2週と重なることとなり、リーグとして日程変更等を検討しましたが、スケジュール変更が難しく、止むなくナショナル抜きの運営となってしまいました。開催地、ファンの皆様に大変申し訳がない事となりましたが、この大会が次回オリンピック予選の組合せに影響することが判明し、何んとしてもアトランタオリンピックの出場を目指す日本としては、この大会で良い結果を出すべきとの結論に達し、前記の方向性となりました。また来年の19回大会は、女子を一部8チームとし、より充実した大会を目指していますが、一方で世界選手権予選が年度前半に行われることになっており、且つ10月には広島においてアジア大会が行われることが決っており、97年に世界選手権の日本開催を目指す日本としては、何んとしても来年度はナショナルが各大会において好成績を納めることがハンドボール界の発展に欠かせないとの見地より、日本リーグは年度後半の11月よりスタートし、ナショナル強化第一を確認いたしました。

県協会だより

徳島県ハンドボール協会



本県のハンドボール協会は、昭和41年―当時の県高体連会長・久木武夫氏、専門部長前田誠之助先生、池田高校・田岡忠先生らの尽力により、47都道府県中最後の県協会として産声をあげました。設立後20有余年、紆余曲折の中から平成7年には30周年の節目を迎えようとしているわけですが、設立当時の役員諸氏に運営を委ねるまま、後継者育成をおろそかにし、当然指導者として中央から技術を修得後徳島へ帰ってくる者もなく、普及・強化の面でも他県に遅れをとるという状況から未だハンドボール後進県の域を脱することもできず、〝県協会だより〟に寄稿するのも憚りながらの感は正直否めません。

戦歴を振り返っても、インタハイでの過去最高戦績がベスト16、国体・高校選抜大会・全国中学生大会においては、四国ブロック予選を突破しての出場は皆無というお恥ずかしい成績で、ブロックを勝ち抜いての全国大会出場が関係者一同の悲願です。

又、登録の現況も小・中学生0、高校12、大学・一般8チームの計20チームと少なく、指導者の育成と義務教育課程への普及が急務であろうと考えています。

さいわいにも、平成5年の東四国国体に向けて、少数ながらも指導者も確保でき、今後は30周年記念行事としてフェスティバルの開催、平成10年四国インタハイでの会場地立候補と、常に目標を持った協会運営を推進することで組織の充実と競技人口の底辺拡大を図り、〝日本協会のお荷物〟にならぬよう頑張ってまいりますので、各県協会ならびに日本協会の御指導のほど、未筆ながら、お願いいたしまして〝徳島県協会だより〟とさせていただきます。

各地の大会結果

関東

群馬県中学校総体
（7月31、8月1日／富岡実業高校他）

◎男子

▼1回戦
南八中 24－21 前北中
廿二中 18－11 前七中
富岡中 26－8 桐東中
富東中 16－10 藤南中
廿三中 24－12 天中中
相生中 17－16 松南中
富南中 29－8 前元中

▼2回戦
下西中 32－16 南八中
富岡中 22－13 廿二中
富東中 25－11 廿三中
富南中 30－15 相生中

▼準決勝
下西中 25－10 富岡中
富南中 16－14 富東中

▼決勝
富岡南中 25（14－8、11－3）11 下仁田西

◎女子

▼1回戦
高南中 15－8 倉渕中
松南中 20－12 相生中

▼2回戦
富岡中 25－7 高南中
富南中 22－11 桐東中
塚沢中 12－10 富西中
富東中 13－12 松南中

▼準決勝
富岡中 18－7 富南中
塚沢中 10－7 富東中

▼決勝
富岡中 18（10－3、8－2）5 塚沢中

茨城県民総体（少年）
（6月19～20日／笠間高校）

◎男子

▼1回戦
伊奈 36－5 緑岡
竜ヶ崎南 31－18 鉾田一
霞ヶ浦 24－7 谷田部
岩井 28－12 日立一
笠間 23－17 水海道一
土浦日大 23－14 麻生
竹園 15－12 並木
守谷 25－9 竜ヶ崎一

▼2回戦
伊奈 23－12 竜ヶ崎南
岩井 32－19 霞ヶ浦
土浦日大 22－20 笠間
守谷 33－11 竹園

▼準決勝
伊奈 24－11 岩井
守谷 18－11 土浦日大

▼決勝
守谷 15（5－6、10－8）14 伊奈

◎女子

▼1回戦
水海道二 27－3 竜ヶ崎二
日立二 26－7 鉾田二
麻生 24－19 藤代紫水
愛国学園 25－2 水戸二
伊奈 13－12 水海道一
中央 20－11 高萩
竜ヶ崎一 18－15 下妻二
聖徳大附 30－12 土浦二

▼2回戦
水海道二 45－2 日立二
麻生 22－18 愛国学園
中央 19－18 伊奈
聖徳大附 29－11 竜ヶ崎一

▼準決勝
水海道二 17－9 麻生
中央 14－13 聖徳大附

▼決勝
水海道二 30（16－2、14－11）13 中央

第23回関東選手権大会
（6月26～27日／柏市民体育館他）

◎男子一部

▼1回戦
桜門クラブ 19－13 小金クラブ
蒔田クラブ 11－11（3PTC2）46Gクラブ
富岡クラブ 18－16 筑波クラブ
日川クラブ 20－4 柿の実クラブ

▼2回戦
桜門クラブ 23－11 蒔田クラブ
日川クラブ 17－16 富岡クラブ

▼決勝
桜門クラブ 24（12－5、12－8）13 日川クラブ

◎女子

〈Aグループ〉
成美クラブ 12－12 日川クラブ
オレンジクラブ 17－10 日川クラブ
オレンジクラブ 18－10 武蔵野クラブ
オレンジクラブ 22－6 成美クラブ
日川クラブ 13－12 武蔵野クラブ
武蔵野クラブ 8－6 成美クラブ

〈Bグループ〉
光電クラブ 12－7 若生クラブ
佳英クラブ 25－7 若生クラブ
佳英クラブ 23－5 光電クラブ

▼3位決定戦
日川クラブ 14－11 光電クラブ

▼決勝
佳英クラブ 14（4－8、10－4）12 オレンジクラブ

北信越

長野県高校総体
（6月4～6日／更埴市民体育館他）

◎男子

▼1回戦
野沢南 27－10 長野南
松本第一 25－6 上田千曲

▼2回戦
屋代 29－12 野沢南
野沢北 23－11 梓川
田川 22－12 更農
小諸 29－2 富士見
坂城 36－13 松本第一
清陵 19－15 臼田
美須々 28－15 長野東
上田 37－10 蟻ヶ崎

▼3回戦
屋代 33－12 野沢北
小諸 17－14 田川
坂城 25－5 清陵
上田 32－15 美須々

▼準決勝
屋代 27－11 小諸
坂城 22－13 上田

▼3位決定戦
上田 19－13 小諸

▼決勝
屋代 18（10－13、8－4）17 坂城

※屋代は2年ぶり13回目の優勝

◎女子

▼1回戦
小諸商 19－13 田川
美須々 15－2 長野南
更農 19－9 松本第一
蟻ヶ崎 17－13 坂城

▼2回戦
屋代 26－7 小諸商
臼田 22－14 美須々
塩尻 28－11 更農
佐久 36－7 蟻ヶ崎

▼準決勝
屋代 27－15 臼田
佐久 16－15 塩尻

▼3位決定戦
臼田 17－11 塩尻

▼決勝

屋　代 22（10－4、12－7）11 佐　久

※屋代は3年連続5回目の優勝

東海

第36回全日本教職員選手権

（8月9～13日／豊田市体育館・知立市福祉体育館他）

◎男子

▼1回戦

東京教員 21－20 宮崎教員
わかくさク 12－0 鹿児島教員
京都教員鴨川 27－25 静岡県教員団
富山教職員 43－13 和歌山ク
岩手教員A 26－20 愛媛教員A
福岡教員 29－18 千葉教員
埼玉教員ク 29－22 長野教員A
スワロー兵庫 25－16 石川教員
宮城教員 31－18 鹿野クラブ
埼玉フェニックス 44－22 徳島教員
神奈川県教員 36－17 岩手教員B
群馬教員 22－20 長野教員B
愛媛教員B 18－13 NFC新潟
福井教員A 26－13 愛知教員B
沖縄教員 22－16 埼玉ライオンズ
SAS瀬戸大橋オールスターズ 12－0 東根クラブ

▼2回戦

香川教員 44－13 東京教員
岡山教員 24－19 わかくさク
福井教員B 26－25 京都教員鴨川
富山教職員 30－21 知多教員ク
岩手教員A 32－18 広島県教員
福岡教員 30－19 イガヤクラブ
埼玉教員 27－10 熊本教員
山口県教員団 28－12 スワロー兵庫
愛知教員A 46－12 宮城教員
埼玉フェニ 35－23 茨城コンドルズ
大阪教員 20－17 神奈川県教員
栃の葉クラブ 32－18 群馬教員
愛媛教員B 23－18 滋賀教員
福井教員 29－19 三重教員
沖縄教員 22－17 岐阜教員
京都教員ク 36－12 瀬戸大橋

▼3回戦

香川教員 35－15 岡山教員
富山教職員 23－16 福井教員B
福岡教員 33－23 岩手教員A
山口県教員団 23－22 埼玉教員ク
愛知教員A 29－24 埼玉フェニ
栃の葉クラブ 28－16 大阪教員
福井教員A 19－18 愛媛教員B
京都教員ク 28－11 沖縄教員

▼4回戦

香川教員 44－14 富山教職員
福岡教員 28－20 山口県教員団
愛知教員A 26－24 栃の葉クラブ
京都教員ク 34－14 福井教員A

▼準決勝

香川教員 30－23 福岡教員
京都教員ク 18－15 愛知教員A

▼3位決定戦

愛知教員A 23－15 福岡教員

▼決勝

香川教員 30（14－11、16－12）23 京都教員クラブ

◎女子

▼1回戦

愛　媛 18－14 栃の葉女教員

▼2回戦

神奈川教員 16－13 愛知ウィンズ
福岡教員 32－6 三重教員
山口クラブ 25－19 ニューパワー
埼玉白小鳩 29－21 岩手教員
京都教員 22－21 愛　媛
福島教員 21－18 大阪教員
群馬教員 21－17 愛知シャッチー

▼3回戦

京都教員 31－15 福井教員
群馬教員 19－13 福井教員
福岡教員 18－18 神奈川教員（4PTC3）
埼玉白小鳩 20－11 山口クラブ

▼準決勝

京都教員 32－13 群馬教員
埼玉白小鳩 22－17 福岡教員

▼3位決定戦

福岡教員 21－12 群馬教員

▼決勝

京都教員 26（17－10、9－11）21 埼玉白小鳩

第1回教職員マスターズ

（8月10～11日／中京大会）

◎男子

▼決勝リーグ

ATF 22－10 広　島
三　重 25－22 スワロー
埼　玉 22－6 ATF
スワロー 24－18 広　島
三　重 23－20 埼　玉
スワロー 23－19 ATF
埼　玉 21－15 広　島
埼　玉 25－17 スワロー
三　重 24－19 ATF
三　重 27－13 広　島

（順位）①全教員三重②埼玉教員③ロイヤルスワロー（兵庫）④ATF（愛知）⑤サンフレ広島

◎女子

▼決勝リーグ

中　部 21－8 瀬戸内
カモメ 15－15 ガンバルズ
カモメ 17－9 中　部
瀬戸内 13－10 ガンバルズ
中　部 19－10 ガンバルズ
瀬戸内 18－17 カモメ

（順位）①中部ドリームス（東海地区）②瀬戸内レディース（中四国地区）③とべないカモメ（関東地区）④大阪ガンバルズ（関西地区）

愛知県高校選手権大会

（8月1～4日／国府高校）

◎男子

▼1回戦

三　河 27－13 丹　羽
春日井南 14－14 豊田北（2PTC1）
五　条 24－16 豊川工
岡　崎 25－13 豊橋西
名古屋南 21－17 蟹　江
瑞　陵 20－15 東海南
豊　野 21－20 菊　里
愛　知 22－11 江　南
桜　台 20－4 豊田南
蒲郡東 40－9 阿久比
高蔵寺 15－14 名城大附

岡崎北 28—18 横須賀
市工芸 17—11 中京
時習館 23—11 新川
佐織工 23—15 半田
東海 23—12 名古屋大谷

▼2回戦
三河 21—19 春日井南
岡崎 20—18 五条
瑞陵 21—19 名古屋南
愛知 21—16 豊野
桜台 23—19 蒲郡東
高蔵寺 25—17 岡崎北
市工芸 17—12 時習館
佐織工 18—15 東海

▼3回戦
三河 26—10 岡崎
瑞陵 15—12 愛知
桜台 28—14 高蔵寺
佐織工 27—12 市工芸

▼準決勝
三河 19—15 瑞陵
桜台 30—20 佐織工

▼3位決定戦
佐織工 24—21 瑞陵

▼決勝
桜台 24（14—9、10—5）14 三河

※桜台は2年ぶり14回目の優勝

◎女子

▼1回戦
東海女 25—11 春日井
岡崎商 24—15 武豊
旭丘 28—13 岡崎西
旭野 19—8 東浦
半田 23—15 豊橋西
富田 16—5 衣台
一宮女 26—5 豊橋東
佐屋 27—19 春日井西
半田商 19—8 松蔭
豊橋商 16—11 木曽川
三好 21—9 桜台
春日井南 36—13 江南
一宮南 6—6 蒲郡東（PTC 2—0）
中京女 19—3 中川商
豊田南 12—9 五条
安城学園 24—9 鳴海

▼2回戦
東海女 21—7 岡崎商
旭丘 24—14 旭野
半田 13—12 富田
佐屋 23—14 一宮女
半田商 14—10 豊橋商
三好 26—15 春日井南
中京女 24—3 一宮南
安城学園 20—2 豊田南

▼3回戦
東海女 28—19 旭丘
佐屋 32—6 半田
三好 26—3 半田商
安城学園 22—15 中京女

▼準決勝
東海女 23—16 佐屋
三好 19—15 安城学園

▼3位決定戦
安城学園 23—20 佐屋

▼決勝
三好 17（9—5、8—10）15 東海女

※三好は4年ぶり2度目の優勝

四国

愛媛県総合体育大会

（5月30日～6月1日／松山北高校グラウンド）

◎男子

▼1回戦
今治東 28—11 新居浜商
松山西 14—12 新居浜西

▼2回戦
今治工 24—11 吉田
松山工 40—12 宇和島南
松山商 24—13 今治東
松山南 20—8 松山東
今治西 26—11 新居浜東
松山北 12—7 松山中央
新田 34—10 伊予
新居浜工 33—9 松山西

▼3回戦
松山商 32—5 今治工
松山工 28—13 今治西
松山北 33—19 新田
新居浜工 25—13 松山南

▼準決勝
松山商 19—10 松山工
新居浜工 22—18 松山北

▼3位決定戦
松山北 19—18 松山工

▼決勝
新居浜工 21（9—8、8—9、2—2、2—1）20 松山商

※新居浜工は3年ぶり33度目の優勝

◎女子

▼1回戦
小松 14—8 東温

▼2回戦
松北中島 21—10 今治西
今治東 16—5 松山中央
新居浜商 30—4 伊予
松山商 24—2 三崎
今治南 8—8 松山西（PTC 2—1）
今治北 19—9 弓削
新居浜東 33—4 大島
松山北 27—4 小松

▼3回戦
松山北 30—5 松北中島
今治東 23—4 今治南
新居浜商 14—13 新居浜東
今治北 36—6 松山商

▼準決勝
松山北 26—18 今治東
今治北 28—9 新居浜商

▼3位決定戦
今治東 24—19 新居浜商

▼決勝
今治北 18（9—8、9—7）15 松山北

愛媛県高校総体

（6月5～7日／松山北高校）

◎男子

▼1回戦
松山城南 32—19 新居浜商
松山工業 23—14 今治東

▼2回戦
松山中央 15—13 新居浜西
今治西 23—12 伊予
松山北 21—14 松山東
新田 30—12 吉田

新居浜工 29－8 松山城南
松山西 27－18 松山商
今治工 15－14 宇和島南
松山南 21－20 松山工

▼3回戦
新居浜工 31－7 松山中央
松山北 17－14 今治西
新田 19－18 松山西
松山南 21－11 今治工

▼準決勝
新居浜工 18－12 松山北
松山南 24－19 新田

▼3位決定戦
松山北 12－11 新田

▼決勝
新居浜工 19（7－5、12－3）8 松山南
※新居浜工業は2年連続34回目の優勝

◎女子
▼1回戦
三崎 9－8 伊予農

▼2回戦
松山商 24－9 松北中島
松山西 22－9 伊予
新居浜商 17－6 弓削
今治東 35－3 東温
新居浜東 17－8 松山中央
小松 14－8 今治南
今治北 29－6 今治西
松山北 63－2 三崎

▼3回戦
松山北 32－5 松山商
新居浜商 16－8 松山西
今治東 19－17 新居浜東
今治北 18－5 小松

▼準決勝
松山北 23－13 新居浜商
今治北 16－2 今治東

▼3位決定戦
今治東 19－8 新居浜商

▼決勝
今治北 12（4－4、8－7）11 松山北
※今治北は3年連続6回目の優勝

九州

九州中学大会

（日時不詳／佐賀県総合体育館）

◎男子
▼1回戦
日吉・長① 19－12 神崎・佐②
国分・鹿① 15－13 山田・宮②
松橋・熊① 18－16 浦西・沖②
花畑・福① 14－9 鶴崎・大②
小林・宮① 17－6 相浦・長②
神森・沖① 不参加 伊敷・鹿②
都呂々・熊② 26－23 東陽・大①
友泉・福② 18－10 多久中央・佐①

▼2回戦
日吉 20－10 国分
松浦 20－18 花畑
神森 26－19 小林
友泉 20－15 都呂々

▼準決勝
松橋 25－11 日吉
神森 29－19 友泉

▼3位決定戦
友泉 18－15 日吉

▼決勝
神森 24（11－7、13－13）20 松橋

◎女子
▼1回戦
浦西・沖① 14－6 山田・宮①
原川・大① 17－7 国分・鹿②
芦屋・福① 20－5 多久中央・佐②
住吉・熊② 17－7 柚木・長①
小林・宮② 7－6 重富・鹿①
佐伊津・熊① 28－12 鶴崎・大②
浦添・沖① 12－11 本城・福②
福埼・佐① 18－11 鳴北・長②

▼2回戦
原川 13－12 浦西
芦屋 12－11 住吉
佐伊津 26－8 小林
浦添 20－6 神埼

▼準決勝
原川 17－7 芦屋
佐伊津 20－19 浦添

▼3位決定戦
芦屋 11－10 浦添

▼決勝
佐伊津 26（14－8、12－1）9 原川

西日本学生選手権

（8月／福岡市民体育館）

◎男子
▼予選リーグ
〈Aブロック〉
大阪体育大 27－12 広島大
大阪体育大 22－10 西南学院大
大阪体育大 36－6 同志社大
同志社大 21－18 広島大
同志社大 1[illegible]－16 西南学院大
広島大 18－9 西南学院大

〈Bブロック〉
大阪経済大 28－18 山口大
大阪経済大 27－11 南山大
大阪経済大 23－22 関西外語大
山口大 19－18 南山大
山口大 31－17 関西外語大
南山大 20－15 関西外語大

〈Cブロック〉
名城大 22－16 立命館大
名城大 28－15 熊本大
名城大 26－8 仏教大
立命館大 32－19 熊本大
立命館大 30－19 仏教大
仏教大 17－16 熊本大

〈Dブロック〉
桃山学院大 32－22 愛知教育大
桃山学院大 36－17 九州産業大
桃山学院大 24－19 関西大
関西大 18－16 愛知教育大
関西大 25－15 九州産業大
愛知教育大 26－20 九州産業大

〈Eブロック〉
福岡大 29－13 愛知学院大
福岡大 39－12 大阪教育大
福岡大 38－12 広島経済大
愛知学院大 23－21 広島経済大
広島経済学 23－18 大阪教育大
大阪教育大 21－14 愛知学院大

〈Fブロック〉
京都産業大 17－14 東和大
京都産業大 31－16 名古屋大
京都産業大 27－12 大阪市立大
東和大 25－7 名古屋大
東和大 24－7 大阪市立大

名古屋大 17－16 大阪市立大

〈Gブロック〉

中京大 40－14 沖縄国際大
中京大 27－13 松山大
中京大 32－16 天理大
天理大 28－16 沖縄国際大
天理大 27－14 松山大
沖縄国際大 31－16 松山大

〈Hブロック〉

中部大 26－15 近畿大
中部大 29－14 福岡教育大
中部大 35－10 広島修道大
近畿大 24－18 福岡教育大
近畿大 23－10 広島修道大
福岡教育大 29－20 広島修道大

▼1回戦

大阪体育大 25－15 大阪経済大
名城大 30－18 桃山学院大
福岡大 29－16 京都産業大
中京大 31－25 中部大

▼準決勝

大阪体育大 27－15 名城大
福岡大 27－27 中京大
4 PTC 3

▼3位決定戦

名城大 24－21 中京大

▼決勝

大阪体育大学 22 ｛13－8／9－7｝ 15 福岡大学

◎女子

▼予選リーグ

〈aブロック〉

武庫川女子 25－6 中京大
武庫川女子 32－6 沖縄国際大
武庫川女子 25－7 立命館大
中京大 24－5 沖縄国際大
中京大 18－12 立命館大
立命館大 16－16 沖縄国際大

〈bブロック〉

中京女子大 35－15 九州女子大
中京女子大 15－8 関西外語大
中京女子大 18－11 関西女短大
関西女短大 26－15 九州女子大
関西女短大 12－12 関西外語大
関西外語大 25－18 九州女子大

〈cブロック〉

福岡大 34－5 広島大
福岡大 18－6 大阪教育大
福岡大 29－12 天理大
天理大 23－9 広島大
天理大 18－10 大阪教育大
大阪教育大 17－10 広島大

〈dブロック〉

大阪体育大 20－15 福岡教育大
大阪体育大 39－7 愛媛大
大阪体育大 28－3 南山大
福岡教育大 36－4 愛媛大
福岡教育大 27－6 南山大
愛媛大 14－6 南山大

▼準決勝

武庫川女子大 23－8 中京女子大
大阪体育大 26－26 福岡大
2 PTC 0

▼3位決定戦

福岡大 24－15 中京女子大

▼決勝

大阪体育大学 22 ｛13－8／9－7｝ 15 武庫川女子大

●機関誌委員会スタッフ
植村繁／恩田健一／木野実／本多正樹／菅野恵理／臼井鉄久／門松真一

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三三五号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成五年三月二十六日 印刷
平成五年十月一日 発行
東京都渋谷区神南一−一−一
電話 代表 三四八一−二三六一
振替 東京 六−五八三四八番
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）